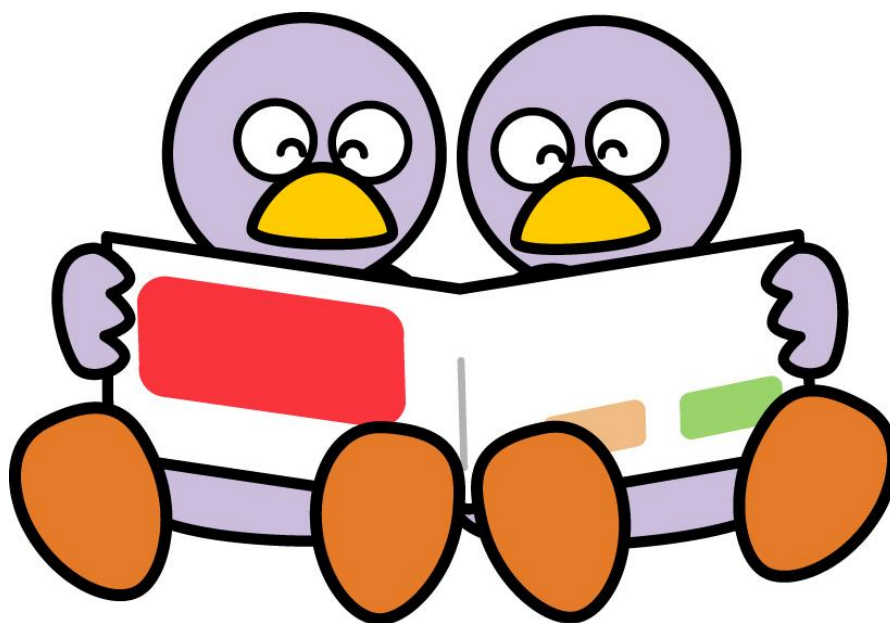




彩の国 埼玉県

支援籍学習実践事例集



埼玉県のマスコット「コバトン」

平成 23 年 3 月
埼玉県教育委員会

はじめに

近年、障害者施策を巡る国内外の状況は大きな変化の中にあります。平成14年12月には、「21世紀に我が国が目指すべき社会は、障害の有無にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会とする必要がある」とする新たな障害者基本計画が策定されました。

教育においても、平成19年4月1日に改正学校教育法が施行され、その中では、「特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている。」と記されています。

現在、内閣府に設置された「障がい者制度改革推進本部」の「障がい者制度改革推進会議」において、「障害者の権利に関する条約」（仮称）の批准に向けた国内法の整備についての検討がなされております。また中央教育審議会に設置された「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」においては、今後の特別支援教育の推進について検討が進められております。

本県では、平成16年度から、「ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進」を重点施策として掲げ、県独自の取組である「支援籍」を進めてまいりました。開始から7年目を迎え、当初の目標でありました、「全市町村での支援籍学習の実施」が、ほぼ達成されてきている状況です。今後は、さらなる普及拡大を進めるとともに、質的な深化も目指していかなければなりません。

今回作成した「支援籍学習実践事例集」は、今後さらに「支援籍学習」を推進していくための参考事例資料となっております。「通常学級支援籍」、「特別支援学校支援籍」、「特別支援学級支援籍」の3つの支援籍の様々な取組を紹介させていただいております。

今後の更なる「ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進」に向け、一層の充実を図るために御活用いただければ幸いです。

平成23年3月

埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課長

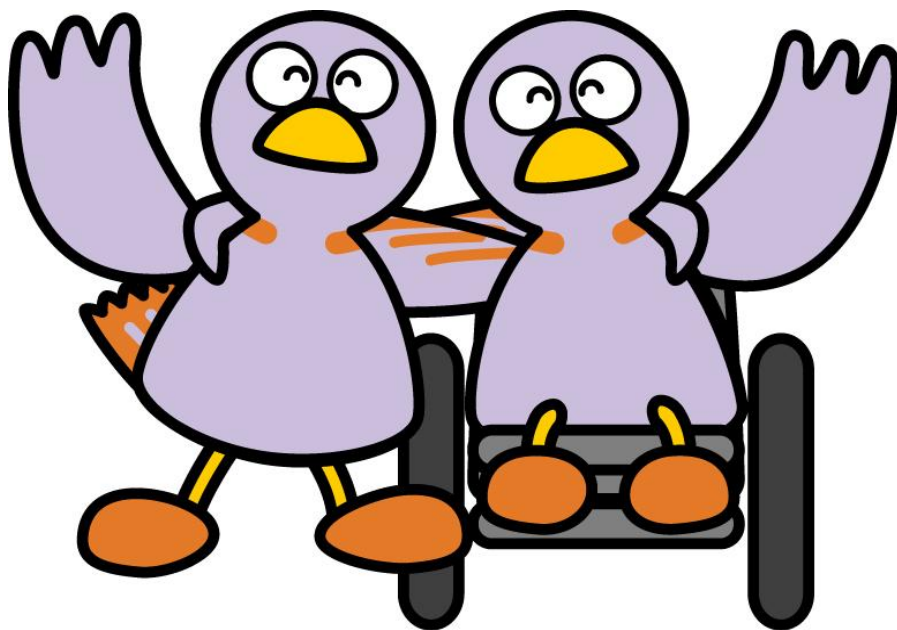
新井茂登

目 次

はじめに	1
目次	2
第1章 ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進について	5
1 ノーマライゼーションとは	
2 「心のバリアフリー」と「社会で自立できる自信と力」	
第2章 支援籍について	7
1 支援籍とは	
2 支援籍のねらい	
3 支援籍の効果	
4 支援籍の種類と内容	
5 支援籍学習の進め方（例）	
6 事前の打ち合わせ	
7 事前指導について	
8 事後指導について	
9 実施後の反省について	
第3章 通常学級支援籍（特別支援学校から小中学校の通常の学級へ）	13
1 視覚障害 【小学部の事例】	14
2 視覚障害 【中学部の事例】	16
3 聴覚障害 【小学部の事例】	18
4 聴覚障害 【中学部の事例】	20
5 病弱 【小学部の事例】	22
6 肢体不自由 【小学部の事例】	24
7 肢体不自由 【小学部の事例】	26
8 肢体不自由 【中学部の事例】	28
9 肢体不自由 【中学部の事例】	30
10 知的障害 【小学部の事例】	32
11 知的障害 【小学部の事例】	34

12	知的障害	【中学部の事例】	36
13	知的障害	【中学部の事例】	38
14	知的障害	【小学校の入学式に参加した事例】	40
15	肢体不自由	【中学校の入学式に参加した事例】	42
16	知的障害	【朝学習に参加した小学部の事例】	44
17	間接交流・知的障害	【小学部（手紙の交換、出前授業など）】	46
18	保護者の話	【聴覚障害 通常学級支援籍】	48
19	保護者の話	【肢体不自由 通常学級支援籍】	50
20	保護者の話	【知的障害 通常学級支援籍】	52
21	保護者の話	【知的障害 通常学級支援籍】	54
22	保護者の話	【知的障害 通常学級支援籍】	56
第4章 特別支援学校支援籍（小中学校から特別支援学校へ）			59
1	視覚障害	【小学生の事例】	60
2	聴覚障害	【小学生の事例】	62
3	聴覚障害	【中学生の事例】	64
4	肢体不自由	【小学生の事例】	66
5	肢体不自由	【中学生の事例】	68
6	知的障害	【小学生の事例】	70
7	知的障害	【中学生の事例】	72
8	保護者の話	【知的障害 特別支援学校支援籍】	74
9	保護者の話	【知的障害 特別支援学校支援籍】	76
第5章 特別支援学級支援籍（小中学校の通常の学級から小中学校の特別支援学級へ）			79
1	小学校	【他校で支援籍学習を行った事例】	80
2	小学校	【他校で支援籍学習を行った事例】	82
3	中学校	【他校で支援籍学習を行った事例】	84
おわりに			86

ノーマライゼーションの理念に基づく
教育の推進について



埼玉県のマスコット「コバトン」

1 ノーマライゼーションとは

ノーマライゼーションとは、「障害者を特別視するのではなく、一般社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きることこそノーマルであるという考え」のことです。

そして、このノーマライゼーションの理念の実現を図るためには、障害のあるなしに関わらず子どもの頃から共に育ち、共に学ぶことが大切になります。

そこで、埼玉県では、障害のある子とない子が一緒に学ぶ機会を拡大していくために、県独自の仕組みである「支援籍」の普及・定着を図るなど、「ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進」に取り組んでいます。



(写真；支援籍指導資料より)

2 「心のバリアフリー」と「社会で自立できる自信と力」

ノーマライゼーションの地域社会を作るには、学校において「心のバリアフリー」や「社会で自立できる自信と力」をはぐくむ教育を推進することが必要になります。

「心のバリアフリー」とは、障害者に対する差別や偏見などの心の障壁を取り除くことです。

「心のバリア」は、障害のある児童生徒に対する同情や憐れみの感情からではなく、「知り合



う・ふれあう・学び合う」ことを通して、共感的に理解することで取り除かれます。

「社会で自立できる自信と力」とは、障害のある児童生徒が、障害のない児童生徒と一緒に学べるという自信や、生活や学習上のつまずきを改善または克服できる力のことです。

「社会で自立できる自信と力」は、共に学び、活動することを通して得ることができます。

(写真；保護者向け支援籍理解推進リーフレットより)

支援籍について



埼玉県のマスコット「コバトン」

1 支援籍とは

「支援籍」とは、障害のある児童生徒が必要な学習活動を行うために、在籍する学校または学級以外に置く埼玉県独自の学籍です。

例えば、特別支援学校に在籍する児童生徒が居住地の小中学校に「支援籍」を置くことにより、同じ学校のクラスメイトとして一定程度の学習活動を行うことができます。また、小中学校の通常の学級に在籍する障害のある児童生徒が、特別支援学級や特別支援学校に支援籍を置いて、障害の状態を改善するために必要な指導を受けるケースもあります。

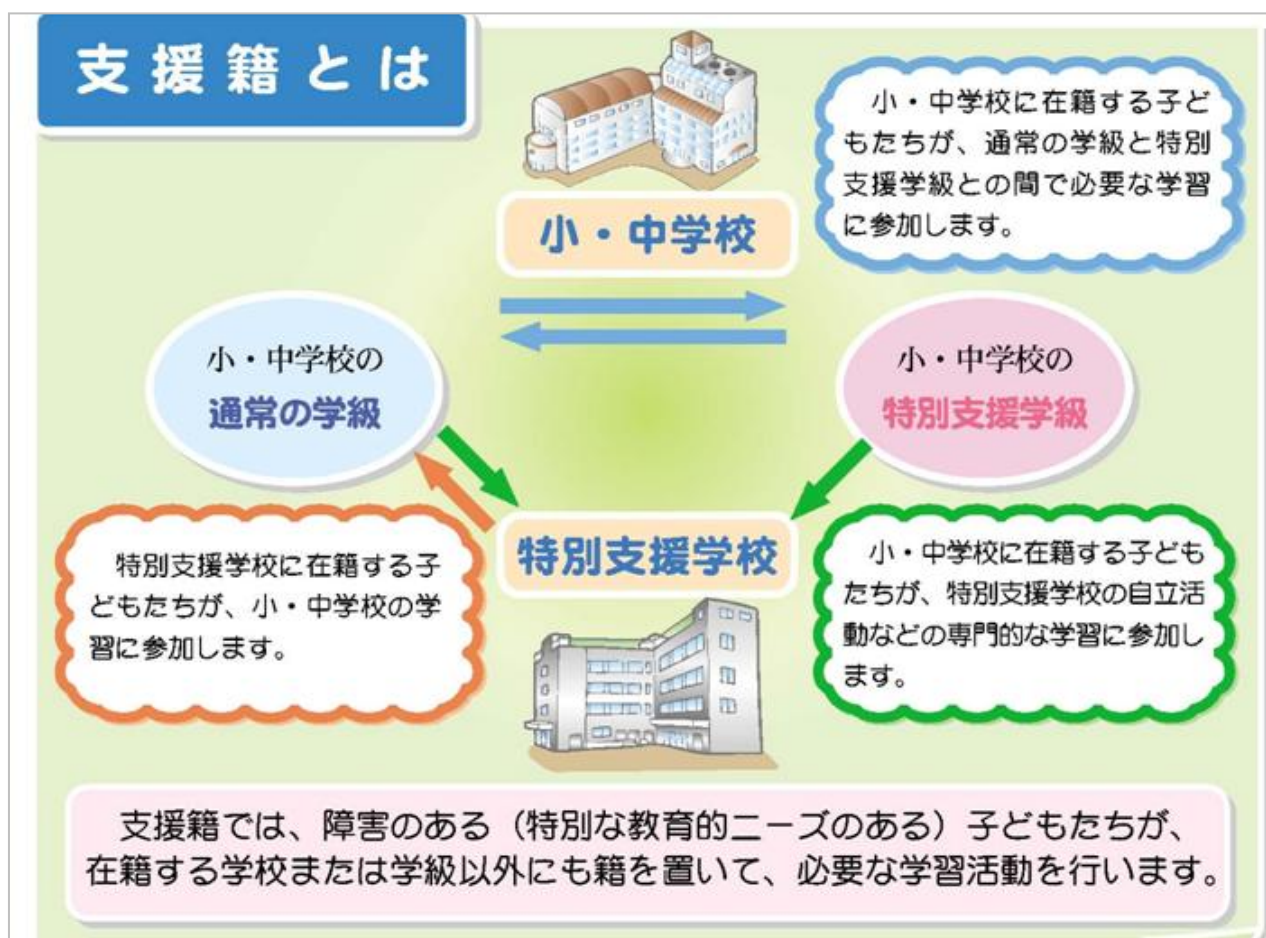


図 支援籍とは

2 支援籍のねらい

- (1) 障害のある児童生徒とない児童生徒と一緒に学ぶ機会の拡大を図ります。
- (2) 特別な教育的支援を必要とする児童生徒を含め、障害のある児童生徒一人一人にきめ細かな教育の実現を図ります。
- (3) 障害のない児童生徒の障害者に対する差別や偏見等の心の障壁を取り除きます。
- (4) 障害のある児童生徒が個々のニーズに応じた支援を受け、地域とのつながりを広げます。

3 支援籍の効果

- (1) 障害のない児童生徒にとっては、障害者に対する差別や偏見といった心の障壁が取り除かれます。
- (2) 障害のある児童生徒にとっては異なる環境に対する対応力や、大きな集団での社会性が培われ、さらには地域とのつながりが広がることとなります。

4 支援籍の種類と内容

支援籍には次に示す三つの種類があります。

(1) 通常学級支援籍（小・中学校の通常の学級での支援籍）

特別支援学校や特別支援学級に在籍している障害のある児童生徒は、日々の授業等でその障害に対する教育を受けていますが、一方では障害のない児童生徒との交流や地域とのつながりは希薄になります。

そのため、居住地の小・中学校に支援籍を置いて学習することで、障害のない児童生徒との交流やつながりを深めることができるようになります。これを通常学級支援籍といいます。

【学習の内容】

- ・ 学習の内容は、本人や学校の状況によって異なります。事前に相談や打合せを行って決定します。主な学習内容は以下の通りです。
 - ① 音楽、体育、生活、総合的な学習の時間などの授業
 - ② 運動会、文化祭、マラソン大会などの学校行事
 - ③ 給食、休み時間、清掃などの日常の学校生活
- ・ 実施回数は、個々によって異なります。障害の状態や個人のニーズによって年数回から月に数回まで様々に実施されます。

通常の学級での支援籍



小学校：図画工作の授業



小学校：楽しい給食



小学校：入学式に出席

(写真；保護者向け支援籍理解推進リーフレットより)

(2) 特別支援学級支援籍（小・中学校の特別支援学級での支援籍）

小・中学校の通常の学級にいる特別な教育的ニーズのある児童生徒は、障害のない児童生徒との交流や地域とのつながりは強いですが、一方でその教育的ニーズに対する専門的な教育という点では、十分でない場合もあります。その時、より専門的な教育を受けるために、特別支援学級に支援籍を置いて学習することができます。これを特別支援学級支援籍といいます。

- ・発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症）も含め、通常の学級において特別な支援が必要なケースについて、個別に専門的な学習を行います。
- ・通級指導に類似する仕組みとして実施しています。

(3) 特別支援学校支援籍（特別支援学校での支援籍）

小・中学校の通常の学級や特別支援学級に在籍している特別な教育的ニーズのある児童生徒が、その障害に基づく困難の改善を図る目的で、より専門的な教育を受けるために、特別支援学校に支援籍を置いて学習することができます。これを特別支援学校支援籍といいます。

- ・弱視、難聴、言語障害、情緒障害、肢体不自由などの障害に基づく困難を改善するための専門的な学習（自立活動）などを行います。
- ・特別支援学校のセンター的機能の一環として、小中学校に在籍している障害のある児童生徒について、直接的に指導を行うことができます。

特別支援学校での支援籍



小学部：自立活動の授業
（足を整える学習）



中学部：自立活動の授業
（目と手の使い方の学習）

（写真；保護者向け支援籍理解推進リーフレットより）

5 支援籍学習の進め方（例）

- ① 支援籍学習について保護者説明会
- ② 希望調査（アンケート等による回答）
- ③ 支援籍学習候補者の決定
 - ・候補者を決定する際には、保護者の希望だけでなく、その子にとって支援籍学習を実施する上でのねらいを明確にすることが大切です。
 - ・共に学び共に育つ観点からも、継続して実施することが大切です。
- ④ 市町村教育委員会へ報告
- ⑤ 支援籍校への連絡・挨拶（管理職・コーディネーター）
 - ・校長から校長へ連絡・挨拶をするのが望ましく、支援籍校へ校長、コーディネーターで児童生徒の説明もかねて挨拶に行くことが望まれます。
 - ・その際、教育支援プランA等を持参し説明をすることが大切です。
- ⑥ 支援籍学習の内容について打合せ（担任・コーディネーター）
 - ・支援籍児童生徒の担任とコーディネーター、支援籍校の担任とコーディネーターで打合せ、日程、受入体制、内容等について打合せを行います。
 - ・その際、双方にとって無理のない活動を考えることが大切になります。
- ⑦ 支援籍学習の実施
- ⑧ 支援籍学習の評価及び反省

6 事前の打ち合わせ

支援籍学習を実施する前に、特別支援学校のコーディネーターと支援籍校（小中学校）のコーディネーターまたは担任による打合せを綿密に行うことが大切です。

打合せの内容としては、実際の支援籍学習のねらいや活動内容、活動の場面における役割分担等になります。

7 事前指導について

支援籍学習を円滑に進めるためには事前学習を行うことが大切になります。

支援籍校（小中学校または特別支援学校）の児童生徒たちに対する事前指導には、支援籍学習で来る児童生徒への適切な支援や関わり方等についての理解を推進することになります。

また、事前学習の外にも、校内に支援籍のコーナーを作って、支援籍児童生徒を紹介したり、在籍校について紹介したりすることも大切になります。さらに小中学校や特別支援学校の学校通信等に支援籍についての記事を掲載してもらい、保護者や地域の方々に理解を図ることも重要で

す。

支援籍児童生徒に対する事前指導には、積極的な行動、支援や協力の求め方、断り方、自分の気持ちの表現の仕方等についての理解を図ることが考えられます。

8 事後指導について

支援籍学習を実施した後は、事後指導として、支援籍学習を通して、感じたこと、思ったことを発表し合ったり、手紙や感想文を書いたり絵に描いたりする機会を設けるなどしてまとめ、関心を一層深めることも大切です。

9 実施後の反省について

さらに年度末には、支援籍学習について評価・反省を行うことが大切です。支援籍学習の活動についてどう感じたか、効果や課題、反省点などを踏まえて、今後どのように継続していきたいかなどについて、特別支援学校と小中学校の双方の話し合いを持つことが大切です。

通常学級支援籍

(特別支援学校から小中学校の通常の学級へ)



埼玉県のマスコット「コバトン」

通常学級支援籍 1 (視覚障害)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Aさんの自己紹介



- ・視覚障害特別支援学校の小学部2年に在籍しています。
- ・全盲です。
- ・学校では点字を使って学習しています。
- ・特別支援学校の中では一人で移動できますが、学校の外では、サポートしてもらいます。
- ・白杖の使い方を練習しています。

【Aさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成22年度～(1年目)

<支援籍校> ; 小学校(幼稚園の頃に一緒に学習した児童がクラスにいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の子どもたちとの交流を通して、お互いに刺激し合い成長すること
- (2) 地域の同年代の子どもたちに、Aさんのことを知ってもらうこと

【Aさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

1月	保護者からの希望提出
3月	校内での調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 初年度のため、学期に1回(年3回)

内容 ; 通常の授業に入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者
- (ボランティア) なし
- (その他) 机イスは、小学校で準備



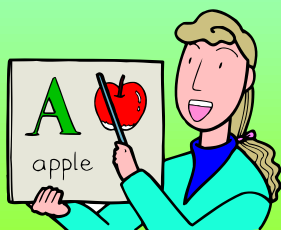
英語の授業に参加

【Aさんの支援籍学習（平成22年11月16日（火）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
9:20	登校	・保護者と一緒に登校しました。
9:35	特別活動 (特別教室で英語活動)	・Aさんは、あまり緊張している様子はなく、積極的に学習に参加しました。 ・英語の歌を振付つきで歌ったり、踊ったりしました。歌に合わせて隣の児童と手を叩きあうなど、クラスの友達と一緒に学習に取り組みました。 ・果物の名前を英語で覚えたり、箱の中に隠されている果物を当てたりするゲームを行いました。ゲームは、クラス中が盛り上がり、Aさんもとても楽しみました。
10:25	休み時間	・休み時間は、クラスの友達がたくさん寄ってきて、会話が弾んで、自然な雰囲気での交流になりました。 ・虫の好きなAさんのために、取ってきたカマキリを触らせてくれる児童もいました。
	下校	・保護者と一緒に下校し、特別支援学校に登校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・Aさんにとっては、支援籍学習を行ったことで、地域の子もたちとの交流が増え、Aさん宅の近所の子もたちと更に親しくなれました。
- ・普段は小人数のクラスで学習をしているAさんにとっては、同年代の児童の大きな集団の中で、クラスの友達と一緒に歌ったり、ゲームをしたりすることで、大いに刺激になりました。
- ・小学校の通常の授業（英語活動）に参加したことで、特別支援学校の授業では味わえない雰囲気を感じ取ることができました。



箱の中の果物を当てるゲームに参加

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・視覚障害の児童が小学校の通常の授業に参加するためには、視覚障害をサポートする情報保障が重要です。点字や分かりやすい教材の工夫などが大切になります。当日の授業でどんな教材を使うのかなど、事前に連絡を取り合っておくと良いです。

通常学級支援籍 2 (視覚障害)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Bさんの自己紹介



- ・視覚障害特別支援学校の中学部3年に在籍しています。
- ・弱視です。
- ・学校では、拡大教科書を使って学習しています。
単眼鏡等の補助具も使うときもあります。
- ・日常生活では、特別なサポートは必要ありません。
- ・自分の伝えたいことは、言葉で説明します。

【Bさんの支援籍】

<開始年度> ; [中学校]平成20年度～(3年目)

<支援籍校> ; 中学校(小学校の頃に一緒に学習した生徒がクラスにいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 小学校の同級生と一緒に学習することで、地域の同年代の生徒との交流を深める
- (2) 通常の中学校の様子を知る

【Bさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

1月	保護者からの希望提出
3月	校内での調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年1回

内容 ; 通常の授業に入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

年度末	支援籍学習の実施時に、関係者、本人、保護者で簡単に反省会。
-----	-------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者
- (ボランティア) なし
- (その他) 机イスは、中学校で準備



体育(バレーボール)の授業に参加

【Bさんの支援籍学習（平成22年2月12日（金）の事例）】 ※平成21年度の事例

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
12:00	登校	・保護者と一緒に登校しました。
	給食	・給食は班ごとに食べました。早々にクラスの友達と打ち解けていました。 ・休み時間は、知り合いの女子を中心に本人を囲む輪ができて、楽しそうに談笑している姿が見られました。
13:35	第5校時 体育	・体育はバレーボールでした。視覚障害のため、空中を飛んでくるボールを、レシーブしたりすることは簡単ではありませんが、他の生徒と一緒にグループ練習に入って活動しました。試合形式のゲームにも参加しました。
14:35	第6校時 道徳	・道徳は、Bさんによる作文の朗読と点字打ちの体験を行いました。Bさんの点字技術が他の生徒を圧倒し、存在感を示していました。
	清掃・ホームルーム・下校	・清掃、学級活動に参加したあと、保護者と下校しました。



給食の片付け方を聞くBさん

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習を通して、視覚障害の学校に対する理解が深まりました。
- ・Bさんにとっては、作文の朗読や点字体験などでの活動が、クラスの中学生から高く評価されたことで、自信を持つことができました。

【Bさんの作文】 「盲学校にきて」

私は、中学1年生から盲学校（埴保己一学園）に入り、今、中学2年生です。

初めの頃は、みんなと仲良くできるかなと不安でした。でも先輩の人たちが、優しく声をかけてくれました。嬉しかったです。

入学した頃は、緊張して、あまり話せませんでした。だんだんに学校にも慣れ、友達とも話せるようになりました。1年生の2学期を迎えて、すっかり学校に慣れました。とても楽しかった1年生でした。

2年生になって、この学校のことも分かってきて、寄宿舎にも入り、楽しく学校生活を送れています。盲学校の良いところは、自分の見やすい文字にしてくれたり、拡大の本があり、全盲の人には、点字の本があったり、先生が一人に一人ついていたり、授業が分かりやすいことなどです。この学校に入学して本当に良かったなと思いました。4月から3年生になるので、後輩の良い見本になるよう頑張りたいです。（※平成21年度に書いたものです）

通常学級支援籍 3 (聴覚障害)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Cさんの自己紹介



- ・聴覚障害特別支援学校の中学部2年に在籍しています。
- ・難聴です。
- ・日常生活では、特別なサポートは必要ありません。
- ・自分の伝えたいことは、言葉で説明します。ちょっと聞き取りづらくかもしれません。

【Cさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度～平成20年度(3年間)

<支援籍校> ; 小学校(幼稚園の頃に一緒に学習した児童がクラスにいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 支援籍学習を通して、地域の中に友達をつくる
- (2) 地域の人たちに聴覚障害のことを理解してもらう
- (3) Cさんが自分自身の障害のことを理解して、受け止められるようになる

【Cさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3～4月	保護者からの希望提出
5月	担任との面談等、候補者決定
5月	学校関係者、市教委関係者で相談
6月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 学期に1回(1回につき、2～3日連続)

内容 ; 1日の授業にそのまま入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担任または担当者(ボランティア) 情報保障(ノートイク等)のボランティアが入る場合がある



体育(水泳)の授業に参加

【Cさんの支援籍学習（平成20年7月2日（水）の事例）】 ※平成20年度の事例

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
	登校	・通学班で登校。
朝	朝の活動	・朝マラソンと朝読書に参加しました。クラスの男子児童と一緒に校庭でマラソンをしました。
1・2	総合的な学習の時間	・「課題を解決しよう」という授業を受けました。
3	道徳	・「ボランティアしあう関係」という授業で、Cさんが、クラスの児童に向けて話すことで、小学生のボランティアに対する理解が進みました。
4	音楽	・「色々な響きを味わおう」という授業を受けました。
昼	給食・昼休み	・昼休みは、レク係が、クラスの遊びをCくんの好きなドッジボールにして、校庭で全員で楽しく遊びました。
5 6	体育	・水泳を行いました。泳ぎはあまり得意ではないということでしたが、積極的に取り組んでいました。
	下校	・クラスの児童と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・小学校の通常の学級の児童と一緒に過ごすなかで、自分の障害についての理解が進み、それを受け入れることができるようになりました。
- ・地域に友達ができました。
- ・昼休みにクラスの友達と一緒にやったドッジボールが、とても上手だと言われたことで、自信になりました。

【小学校の先生から見た子どもたちの様子】

- ・初めは、どう接していいか様子をうかがう姿が見られました。
- ・クラスの子どもたちの姿を見ていると、「障害」に対する見方が変わっていったように思います。初めは、気持ちのどこかに「かわいそう」と思う所があったようですが、それが単に不便だけと思うようになってきて、肩の力が抜けてきたようです。



下校時のクラスにて

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・スムーズな交流のためには、小学校の児童に、事前に障害についての話をしておくことが有効です。この事例では、最初の紹介の時に、「Cさんと話す時は、正面から口をあけて、ゆっくりはっきり大きな声で話してください」と、関わり方について小学校の担任の先生が話をしました。

通常学級支援籍 4 (聴覚障害)

【特別支援学校から中学校 (通常の学級) へ】

Dさんの自己紹介



- ・聴覚障害特別支援学校の中学部1年に在籍しています。
- ・難聴です。
- ・日常生活では、特別なサポートは必要ありません。
- ・野球や空手などのスポーツサークルに所属して活動しているので、地域に友達がたくさんいます。

【Dさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成19年度～平成21年度 (3年間)

[中学校]平成22年度～ (1年目)

<支援籍校> ; 中学校 (小学校から支援籍学習をしているので、知り合いの生徒がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の生徒と交流することで、お互いを知る
- (2) 中学校で同年代の生徒と一緒に学習することで、中学校の雰囲気や状況を知る

【Dさんの支援籍学習の計画 (主な流れ)】

[実施に向けて]

1月～	保護者からの希望提出
4月	担任との面談、校内調整会議
5月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 学期に1～2回	
内容 ; 通常の授業に入る	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者 (ボランティア) なし
- (その他) 座席は黒板の近くに設置



学校行事 (餅つき) に参加

【Dさんの支援籍学習（平成22年12月6日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
朝	登校	・保護者と一緒に登校しました。
	ホームルーム	・教室で、Dさんの紹介がありました。
1 2 3 4	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭で学年行事の「餅つき」に参加しました。 （男子は餅つき、女子は調理） ・グループごとに、準備、餅つき、片付けの作業を行い、Dさんも一つのグループに所属して、中学校の生徒と一緒に活動に参加しました。 ・教室に戻って、班ごとに試食し、試食後は感想文を記入しました。 ・Dさんには、特別支援学校の担当者が付き添っており、必要に応じて、手話などから情報を得ました。
	下校	・自宅に戻った後、特別支援学校に登校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習を小学4年生から行っています。小学校の時は、クラスの友達と一緒に遊んだり、学習するなど、多くの児童と交流を深めました。また得意とする学習の面で、力を発揮できたことは自信となり、その結果、Dさん自身が中学校での支援籍学習の実施に対して積極的になりました。
- ・小中学校の授業に参加する中で、情報保障（要約筆記や手話等）が必要な時に、きちんと自分から要望を伝えることができました。また、必要な情報保障の種類を自分で選択できるようになりました。
- ・支援籍学習を通じて、地域に友達がたくさんできました。
- ・中学校での支援籍学習に参加したことで、中学校の生徒の学校生活を知ることができました。



教室での班別の学習

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・聴覚障害のある児童生徒が、小中学校で授業に参加するためには、情報保障（要約筆記や手話等）をしっかりとすることが重要ですが、児童生徒によっては、人目が気になったり、特別扱いは嫌だという気持ちを持つ人もいますので、本人とよく相談してサポートの仕方を決めることが大切です。

通常学級支援籍 5 (病弱)

【特別支援学校から小学校 (通常の学級) へ】

Eさんの自己紹介



- ・病弱特別支援学校の小学部4年に在籍しています。
- ・心疾患です。
- ・日常生活では、特別なサポートは必要ありませんが、常時携帯用の点滴を持ち歩いているので注意してください。
- ・激しい運動はできませんが、制限等は特にありません。

【Eさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成22年度～(1年目)

<支援籍校> ; 小学校 (病気で入院するまで在籍していた小学校での支援籍学習)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 居住地の小学校での生活を通じて同年代の児童との関わりを深め、生活経験や社会経験を広げる

【Eさんの支援籍学習の計画 (主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 主治医に確認 校内調整会議、候補者決定 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	--

[実施]

回数 ; 週1回程度 (11月から)	
内容 ; 通常の授業に入る	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担任または担当者 (ボランティア) なし
- (その他) 医療的な配慮については、事前に支援籍校と打ち合わせ



給食の準備 (配膳)

【Eさんの支援籍学習（平成23年2月10日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
朝	登校	・保護者と一緒に登校しました。
2	国語	・「言葉遊びの世界」という授業で、クラスの中で自分が作った詩を発表しました。
3	算数	・「小数のかけ算」の学習をしました。
4	音楽	・「音をきき合って」という授業で、グループで合奏をしました。タンバリンを担当してリズム打ちをしました。
昼	[給食]	・クラスの友達と一緒に食べました。給食当番で配膳なども行いました。
	[昼休み]	・クラスの友達と一緒に遊びました。
	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習を行ったことで、Eさん自身が自信を持ち、活動的になりました。周りの友達も声をかけてくれるようになったり、Eさん自身も友達と約束して遊びに出掛けたりするようになりました。支援籍学習を行ったことで、友達ができたことが大きな成果です。
- ・特別支援学校の中では、大きな集団の中で学習する機会がないので、小学校での体験はEさん自身にとって、大きな刺激になりました。また、給食当番で配膳をしたり、教室の掃除をすることなどは、特別支援学校では、普段取り組まないことなので、経験できたことが良かったです。
- ・これまであまり他人に、自分の病気のことを話すことはありませんでしたが、支援籍学習に行ったことで、自信がつき、友達に説明できるようになりました。



図工、絵手紙づくり

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・本人の病気に関することは、個人の情報になるので、何をどのように、小学校の先生やクラスの児童に伝えるかということが大変重要です。緊急時の対応と合わせて、事前によく話し合っておくことが大切です。
- ・病気については、主治医と常に連携を取っておく必要があります。

通常学級支援籍 6 (肢体不自由)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Fさんの自己紹介



- ・肢体不自由特別支援学校の小学部5年に在籍しています。
- ・通常は、車イスを使っています。移動するときは、介助者にサポートしてもらいます。
- ・日常生活では、介助者にサポートしてもらいます。
- ・自分の気持ちは、表情や発声、手を差し出すなどで表現します。

【Fさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度～(5年目)

<支援籍校> ; 小学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の子どもたちと一緒に過ごすことで、交流を深め、社会経験を広げる
- (2) 地域の人たちに、Fさんのことを知ってもらう

【Fさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3月	保護者からの希望提出
3～4月	校内調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年3回(午前2時間程度)

内容 ; 学級活動、音楽、英語活動

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) 特別支援学校担任

(ボランティア) なし

(その他) 体力面から学習は2時間程度



英語活動の授業に参加

【Fさんの支援籍学習（平成22年6月29日（火）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
10:15	登校 業間休み	・保護者と一緒に登校しました。 ・数名の児童が迎えに出て、車イスを押したり、段差を協力しながら乗り越えたりして、体育館へ移動しました。
10:45	学級活動	・林間学校で踊るフォークダンスの練習をしました。小学校の先生が太鼓でリズムを取る音に合わせて、クラスの友達が準備体操をする様子を楽しそうに見ていました。 ・「マイムマイム」などのダンスで、車イスを動かしてもらい、一体感を持って授業に参加しました。
11:30	休み時間	・たくさんの友達に囲まれて、体育館から移動しました。
12:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【Fさんの支援籍学習（平成22年10月8日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
10:15	登校 [業間休み]	・保護者と一緒に登校しました。 ・陸上大会の練習の様子を見学しました。
10:45	[英語活動]	・英語での挨拶や単語の発音などの授業に参加しました。 ・買い物ごっこのワークショップでは、児童が各自洋服などの絵カードを持って活動しました。Fさんもお客さんになったり、店員さんになったりして参加しました。
11:30	[休み時間]	・たくさんの友達に囲まれ、下校直前までおしゃべり。
12:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・1年生から積み重ねで、クラスの友達とは自然な感じの交流ができています。
- ・小学校の児童が、Fさんをどのように受け入れたらいいか、自分たちで考えるなど、小学生自身が成長しました。
- ・小学校の先生や児童に、特別支援学校や本人のことを、より分かってもらうために、10分くらいの紹介用のDVDを作成しました。そのため、スムーズな支援籍学習ができ、特別支援学校や障害についての理解も深まりました。



音楽の授業に参加

通常学級支援籍 7 (肢体不自由)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Gさんの自己紹介



- ・ 肢体不自由特別支援学校の小学部5年に在籍しています。
- ・ 通常は、車イスを使っています。移動するときは、介助者にサポートしてもらいます。
- ・ 日常生活では、介助者にサポートしてもらいます。
- ・ 自分の気持ちは、表情や声で表現します。

【Gさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度～(5年目)

<支援籍校> ; 小学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の子どもたちとの交流を図る
- (2) 集団活動を通して、生活経験を増やす

【Gさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

4月	保護者からの希望提出
5月	面談、校内調整会議、候補者決定
5月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年3回	
内容 ; 学級活動、教科学習、学校行事	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担任
- (ボランティア) なし
- (その他) 移動にはエレベーターを使用



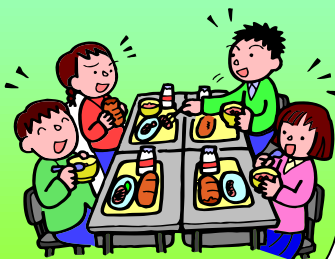
書写の授業に参加

【Gさんの支援籍学習（平成21年7月14日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
11:30	登校	・保護者と一緒に登校しました。
11:50	書写	<ul style="list-style-type: none"> ・教室で書写の授業に参加しました。 ・特別支援学校では事前に書写の練習を行って、Gさんが見通しを持って授業に臨めるようにしました。持ちやすい太さの筆を使ったり、画板を使ってずれないようにした下敷きなど、工夫した書道具を使用しました。 ・始めになぞり書きの練習をしました。 ・清書は、特別支援学校の先生の指示を聞きながら、手元をよく見て書きました。 ・授業の終わりには、クラスの皆に作品を披露しました。
12:35	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチルームに移動。 ・クラスの友達と一緒に食事をし、交流を深めました。
13:55	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・1年生から継続して取り組んでいるので、小学校の子どもたちが自然に関われるようになりました。
- ・Gさんにとっては、小学校で色々な学習をしたことで、経験の幅が広がりました。
- ・集団が苦手だったGさんが、小集団から大集団まで、色々な集団の中で学習ができたことで、経験の幅が広がりました。
- ・支援籍学習を通して、地域の中でGさんの存在を知ってもらえました。
- ・小学生にとっては、障害のあるGさんと一緒に過ごすことで、障害に対する理解が進み、お互いの交流が深まりました。



ランチルームでの給食

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・支援籍学習を行うに当たって、事前に連絡を取り合い、必要に応じて、補助教具を作ったり、練習して臨んだことが有効でした。
- ・学年が上がるにつれて、参加しやすいもの、しにくいものが出てくるので、良く話し合っておくことが大切です。

通常学級支援籍 8 (肢体不自由)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Hさんの自己紹介



- ・ 肢体不自由特別支援学校の中学部3年に在籍しています。
- ・ 通常は補装具を使っています。歩くときは少し不安定ですが、一人で階段の昇り降りもできます。
- ・ 日常生活では、時々サポートが必要なときもあります。
- ・ 自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Hさんの支援籍】

<開始年度> ; [中学校]平成20年度~(3年目)

<支援籍校> ; 中学校(小学校時代の同級生がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 同年代の生徒との交流を通して、地域とのつながりを持つ
- (2) 中学校の学校生活に触れることで、通常の中学生的の様子を知る

【Hさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3月頃	保護者からの希望提出
4月	面談、校内調整会議、候補者決定
5月頃	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年7回程度

内容 ; 教科学習、学校行事など

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担任
生徒の状況によっては、密着せず
に別室で待機することもある
(ホラソフィア) なし



美術に参加、テーマは「心象風景」

【Hさんの支援籍学習（平成22年7月14日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
9:30	登校	・保護者と一緒に登校しました。一日の授業そのまま入りました。
2	国語	・特別支援学級で個別の学習に取り組みました。
3	美術	・「心象風景」というテーマでの作品作りをしました。
4	英語	・通常の授業にそのまま入って学習しました。
昼	給食	・3年生のクラスで班に所属して、友達と一緒に食べました。
5	生活	・特別支援学級で調理実習を行いました。
6	総合的な学習の時間	・夏休みの高校説明会などについての授業にそのまま入って、話を聞きました。
15:40	清掃・帰りの会・下校	保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習を通して、クラスの中に友達ができました。
- ・中学校の学校生活に触れることで、これまで何となく見たり考えていたりしたこと、例えば、身だしなみや食事の仕方、トイレの男女のマークの違いなどを、Hさん自身が自分で意識して考えるようになりました。
- ・Hさん自身にとっては、特別支援学校では経験できないような学習（例えば、理科の実験など）に取り組み、学習することに対してとても刺激を受け、それが自信になりました。
- ・Hさんは中学3年生なので、今年度で支援籍が終わってしまいますが、地域に出ていくのは、高等部を卒業した後になるので、それまでの3年間ブランクにならないように、何らかの形で、地域とのつながりを考えていく必要があると思います。



英語の学習

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・支援籍学習には、特別支援学校の先生が付き添いましたが、Hさんが、クラスの中で十分にやっていけると判断し、遠くから見守るようにしました。その結果、中学校の生徒が、自然にHさんに話しかけたり、一緒に活動したりする場面が見られるようになりました。付き添いが交流の妨げにならないようにすることが大切です。

通常学級支援籍 9 (肢体不自由)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Iさんの自己紹介



- ・肢体不自由特別支援学校の中学部3年に在籍しています。
- ・車イスを使っています。操作は自分で行います。
- ・クラッチと呼ばれる杖を使って歩くこともできます。
- ・日常生活では、サポートが必要な時もあります。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Iさんの支援籍】

<開始年度> ; [中学校]平成20年度～(3年目)

<支援籍校> ; 中学校(クラスに知り合いの生徒がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 将来の進路を考える上で、中学校で同年代の生徒と一緒に教科の学習を行うことで心情を共有し、学習に対するモチベーションを高めるとともに、学力を身に付ける
- (2) 地域の多くの人と交流することで、良い仲間づくりをする

【Hさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2～3月	保護者からの希望提出
4月	面談、校内調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
4月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年3回程度

内容 ; 教科学習、学校行事など

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) 特別支援学校担当者

(ホラソフィア) 中学校で、特別支援学校の先生の補助



社会「市場についての学習」

【Iさんの支援籍学習（平成22年11月19日（金）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
8:00	登校	・保護者と一緒に登校しました。
1	[技術・家庭]	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の授業全部に参加しました。Iさんは、特に介助や補助がなくても、中学校の授業にそのまま参加しました。 ・社会は、『市場』についての学習を行いました。黒板の板書もしっかりとノートに書き写して他の生徒と同じように学習に取り組んでいました。 ・英語は、ヒアリング、プリントなど、他の生徒と一緒に取り組みました。 ・休み時間は、他の生徒と楽しくおしゃべりしました。
2	[社会]	
3	[英語]	
4	[理科]	
5	[給食]	
16:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習で中学校に行ったことで、特定の仲の良い友達ことができました。また、中学校の生徒には、同じ地域に住んでいる人の一人として認識されるようになりました。
- ・高校受験を目指している同じ年齢の生徒と一緒に学習することで、受験に対するモチベーションが高まりました。
- ・受験に対する中学校の雰囲気を感じることができました。
- ・Iさんから、「付き添いとして来ている特別支援学校の先生がいると、かえって友達との交流が進まない」という申し出があり、特別支援学校の先生は、控室で待機するようにしました。その結果、クラスの生徒との距離が縮まり交流が深まるという成果ができました。また、特別支援学校の先生に助けを借りず、自分でできることは自分で行おうとする主体性も身につきました。



英語「単語のヒアリング」

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・車イスや杖を使用しているため、座席や移動などに配慮が必要な場合もあります。在籍校（特別支援学校）と支援籍校（中学校）が良く連携を取って計画を立てることが大切です。
- ・学習面や生活面でのサポートの仕方については、本人とよく話し合っ、どのように支援するのかを決めておくことも大切なことです。

通常学級支援籍 10 (知的障害)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Jさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の中学部1年に在籍しています。
(小学部在籍時の事例です)
- ・日常生活では、サポートが必要な時もあります。ゆっくり行動するので、食事の時などは時間が必要です。
- ・自分の気持ちは、身振りや手振り、表情で伝えます。

【Jさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成17年度～平成21年度(5年間)

<支援籍校> ; 小学校(同じ学校に、保育園で一緒だった児童がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同世代の児童と楽しく触れ合うことで、Jさんのことを知ってもらい、地域で生活する人として、将来的にも交流できるようにしたい

【Jさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2～4月	保護者からの希望提出、面談
5月	校内調整会議、候補者決定
6月	学校関係者、市教委関係者で相談 (支援籍学習連絡会の開催)
7～8月	支援籍校見学及び打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年2回

内容 ; 学校行事、教科学習、学級活動など

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) 特別支援学校担任または担当者
(ボランティア) 支援籍学習で付き添い指導を
している特別支援学校の先生の
クラスで補助(後補充)



通学班で他の児童と一緒に登校

【Jさんの支援籍学習（平成21年9月の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
7:45	登校	・通学班で他の児童と一緒に登校しました。 ・Jさんの歩く速度がゆっくりなので、事前に通学班長や班員にゆっくり歩いてくれるよう依頼しました。
8:10	朝の活動（マラソン）	・朝の活動の前に、全校児童にJさんを紹介し、その後、特別支援学校の担任の先生と一緒に校庭を走りました。
8:20	下校	・保護者と一緒に特別支援学校に登校しました。

【Jさんの支援籍学習（平成21年11月の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
7:45	登校	・通学班で他の児童と一緒に登校しました。
8:10	朝の活動（誕生日会）	・小学校のクラスで、毎月実施している「誕生日会」に参加しました。小学校の児童がJさんの好きなものを事前に調べて、Jさんに関する三択クイズを作るなど、Jさんと一緒に活動するための工夫をしてくれました。
8:30	下校	・保護者と一緒に特別支援学校に登校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・5年間継続してきたことで、クラスにも溶け込んで、他学年の児童にも声をかけられるようになりました。
- ・支援籍学習を続けてきたことで自信がついて、小学校の中でも、Jさん自身が自分の意思で行動を起こすことが多くなりました。
- ・普段は、言葉を話すことがほとんどないJさんが、保育園の時の友達を見つけて、その児童の名前を声に出して言う場面がありました。
- ・地域の行事に誘われたり、子供会に入ってお囃子の練習をするようになりました。
- ・6年生になったときに、通学班での登校を計画に入れました。これは交流という点でとても有効でした。



朝の活動で校庭を走る

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・小学校の児童に対して、Jさんの行動や思いについて、特別支援学校の先生が説明をしました。また、本人ができることについても説明し、児童たちの支援が過度にならないように配慮しました。このような事前説明は大変有効です。

通常学級支援籍 1 1 (知的障害)

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Kさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の小学部3年に在籍しています。
- ・日常生活では、サポートが必要な時もあります。
- ・自分の気持ちは、身振りや手振り、表情で伝えます。うまく伝わるように写真カードを使うこともあります。

【Kさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成21年度～(2年目)

<支援籍校> ; 小学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の中で生きていくための基盤づくり及び応援団づくり
- (2) 小学校やクラスに慣れる
- (3) 小学校の友達や先生に顔や名前を覚えてもらう

【Kさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2月	保護者からの希望提出、面談
3月	校内調整会議、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年2回

内容 ; 学校行事、教科学習など

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者
- (ボランティア) なし



支援籍学習、初めの挨拶

【Kさんの支援籍学習（平成22年7月13日（火）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
9:20	登校	・保護者と一緒に登校しました。
9:30	体育（水泳） 体育館で準備体操	・体育館で、Kさんと担当者が自己紹介をしました。 ・準備体操では、友達の準備体操の様子をよく見て、Kさん自身も取り組みました。
	プールで水泳	・同じ学年の児童と一緒に、プールに入り、水慣れ、パタ足、水かけ、けのび、ドルフィン泳ぎなどに取り組みました。 ・活動中にたくさんの友達が声を掛けてくれたので、Kさんの表情も明るく、笑顔が多かったです。
10:20	下校	・プールサイドで学年の友達に挨拶をしました。 ・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・特別支援学校でも人前で話したり、何かしたりすることが苦手なKさんが、小学校の学年の集会のなかで、落ち着いて挨拶することができました。Kさんにとって、とても良い経験になりました。
 - ・小学校の児童が、積極的に話しかけてくれたり、交流する中で、Kさん自身も刺激を受けて、活動にも楽しく参加することができました。
 - ・支援籍学習で、色々な授業に参加していますが、夏には、Kさんの好きな水泳の学習に参加しました。学年の友達と一緒に、水泳の学習ができたことは、とても楽しい経験になりました。
- 学年の友達と自然な交流の機会を持つことができました。



遊びラウンドで友達と活動

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・新たに支援籍学習を始める児童や生徒には、支援籍学習を始める前の夏休みに、支援籍校となる学校に見学に行きます。他の児童がいない学校や教室を訪れ、学校の大きさや教室の広さを体感してもらいます。事前に教室を見ておくことで支援籍学習の時には、落ち着いた状態で学習できます。

通常学級支援籍 12 (知的障害)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Lさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の高等部1年に在籍しています。
(中学部在籍時の事例です)
- ・日常生活では、サポートが必要な時もあります。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Lさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度(1年間)

[中学校]平成19年度~平成21年度(3年間)

<支援籍校> ; 中学校(小学校の時の友達がクラスにいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の中学校の友達との交流を通して、人間関係の広がりやコミュニケーション能力の向上を図る

【Lさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3月	保護者からの希望提出
4月	面談、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 年5回

内容 ; 学級活動、学校行事、教科学習(美術や家庭など実技の伴う教科中心)、部活動

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
(付添) 特別支援学校担当者
(ボランティア) 支援籍学習で付き添い指導をしている特別支援学校の先生のクラスで補助(後補充)



写生会の参加

【Lさんの支援籍学習（平成20年度の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
6月	写生会、給食	<ul style="list-style-type: none"> ・全校に紹介されました。 ・中学校の校舎の中でクラスの何人かのグループと一緒に午前中いっぱい、校舎を写生しました。
9月	体育祭	<ul style="list-style-type: none"> ・地区と中学校の合同運動会に、保護者と一緒に参加しました。事前に調整して、中学生の参加種目のうち、パン食い競争と綱引きに参加しました。
10月	美術、音楽、給食、昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ・10時30に登校。13時30分に下校。 ・美術は、前回作ったCDジャケットの鑑賞とコースターのデザインに取り組みました。 ・音楽は、鑑賞でした。
11月	美術、音楽、給食、昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ・美術は、木製コースターのデザインを彫刻刀で彫る学習をしました。 ・音楽は、3人一組で、ギターを弾く体験をしました。
12月	美術、学級活動、給食 昼休み	<ul style="list-style-type: none"> ・美術は、木製コースターに色付けを行いました。 ・学級活動は、クリスマスのお楽しみ会に参加しました。

【支援籍学習を行って】

- ・小学校からつながりのある地域の友達が中学校にいたこともあり、支援籍学習でも自然な交流ができました。
- ・Lさんは、折り紙が得意で、支援籍学習の度に作品を持って行ったことで、中学校の中に作品を飾るスペースができ、Lさんを知ってもらえる良い機会となりました。
- ・支援籍学習の開始に当たり、全校への紹介をしたことで、クラス以外の先生や生徒にも知ってもらえました。
- ・支援籍学習を通して自信がつき、積極的な面が出てきました。
- ・中3で支援籍が終わってしまい、折角築いてきた地域とのつながりを継続できないことが残念です。



クラスの生徒と一緒に学習

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・中学校は教科担任制なので、支援籍学習の内容については、特別支援学校と中学校で、よく連絡を取り合っておくことが大切です。必要に応じて、教科担任の先生と打ち合わせをすると良いです。

通常学級支援籍 13 (知的障害)

【特別支援学校から中学校(通常の学級)へ】

Mさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の高等部2年に在籍しています。
(中学部在籍時の事例です)
- ・日常生活では、特にサポートは必要ありません。
- ・自分の気持ちは、少し不明瞭ですが言葉で伝えます。

【Mさんの支援籍】

<開始年度> ; [中学校]平成19年度～平成20年度(2年間)

<支援籍校> ; 中学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の生徒と交流することで、お互いを知ること
- (2) 特別支援学校ではない集団の中で、色々なことを感じることに

【Mさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2月	保護者からの希望提出
3月	校内調整会、候補者決定
4月	学校関係者、市教委関係者で相談
6月以降	開始のための打ち合わせ 中学校担任が特別支援学校を見学

[実施]

回数 ; 年5回

内容 ; 特別活動、学校行事、通常の授業

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担任
- (ホラソニア) 支援籍学習で付き添い指導を
している特別支援学校の先生の
クラスで補助(後補充)



1回目の学級活動の様子

【Mさんの支援籍学習（平成20年度の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
7月	事前学習（道徳）	・障害についての理解や支援籍学習を進めるための話し合い等を中学校の授業の中で、担任の先生が行いました。
7月	学級活動	・中学校の生徒による歓迎の劇が行われました。最初なので、交流を深められるように、Mさんが興味関心の持っている内容を工夫してくれました。
9月	体育祭練習、体育祭	・体育祭の練習の様子や当日の様子を見学しました。
12月	技術	・通常の授業に参加しました。 ・パソコンを使って自由に絵や模様を描いて、作品に仕上げました。
2月	美術	・通常の授業に参加しました。 ・学習内容は、本人に合わせたものを中学校側が用意し、折り紙を折ったり、ハサミでカットしたりして作品に仕上げました。黙々と取り組み、最後に発表しました。
3月	給食、学級活動	・クラスの生徒と一緒に給食を食べ、その後、お別れ会が行われました。

【支援籍学習を行って】

- ・中学校の担任の先生が事前に、特別支援学校を見学し、本人の状況を把握したうえで、取り組んだため、学習がより本人に合った内容となりました。
- ・中学校では、事前に障害についての学習などをしてから取り組んだため、中学生の理解が深まりました。
- ・1回目から5回目まで、お互いを知る機会が持てるように、段階を踏んで学習内容を設定したので、本人にとっても、中学生にとってもスムーズな支援籍学習となり、お互いの交流が進みました。
- ・3、4回目は、通常の授業に入りました。中学生もパソコン等の使い方を教えてくれるなど、自然な関わりが見られました。



体育祭見学後に届いた中学生からの手紙

【保護者から】

- ・これから障害のある人もない人もいる社会の中で生活していくためにも、このような体験はとても大切ですし、絶対に役立つと思います。

通常学級支援籍 14 (知的障害) 入学式

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Nさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の小学部2年に在籍しています。
(小学部1年生在籍時の事例です)
- ・日常生活では、特にサポートの必要はありません。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Nさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成21年度～(2年目)

<支援籍校> ; 小学校(小学校併設の幼稚園に通っていたため、クラスに友達がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 幼稚園からつながりのある児童も多いので、支援籍を通して交流を深める
- (2) 小学校の児童だけでなく、地域の人にもNさんのことを知ってもらう

【Nさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2～3月	特別支援学校の入学説明会で説明 保護者からの希望提出 学校関係者、市教委関係者で相談
4月	保護者への説明
式前日	会場視察
入学式	参加

[実施] (※全体)

回数 ; 学期1回

内容 ; 通常の授業(半日)

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 特別支援学校担当者
(ボランティア) なし
- (その他) 座席は、保護者席の近くに設け、
本人のすぐ近くに保護者が座
れるように配慮



入学式(校長先生の式辞)

【Nさんの支援籍学習（平成21年4月8日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
9:20	登校（受付）	・保護者と一緒に登校しました。受付では少し緊張していましたが、他の児童と一緒に静かに教室で待機しました。
9:40	体育館へ移動	・クラスの友達と一緒に移動しました。
10:00	入学式	・入学式の最中も落ち着いて自分の席に座っていました。 ・小学校の校長先生が式辞の中で、特別支援教育のことや支援籍のこと、Nさんのことを紹介してくれました。
10:40	クラスごとの記念写真	・入学式の記念写真では、落ち着いて他の児童と一緒に写真に写りました。
	教室に移動	・教室では、大勢の児童や保護者に囲まれても静かに、自分の席について、先生の話を楽しみました。 ・教室では、小学校の担任の先生が、クラスの児童や保護者にNさんのことを紹介してくれました。
11:00	下校	・元気な声と笑顔で、「さようなら」を言って下校しました。



全体集合写真

【支援籍学習を行って】

- ・入学式に参加したことで、他の児童の保護者や地域の人にも特別支援学校のことやNさんのことを知ってもらえました。
- ・幼稚園を卒園してすぐの入学式だったためクラスの友達とも自然な感じで交流することができました。

【入学式へのスムーズな参加のために】

- ・保護者に入学式への参加希望についての確認を取ってから、市町村教委や小学校との打ち合わせを行います。当日までの時間が短いため、事前の打ち合わせをしっかりと行うことが重要です。
- ・児童にとっても、保護者にとっても初めての入学式なので、入場の仕方、式の流れ、座席の位置、名簿への掲載など、細かい部分について、よく相談しておくことが大切です。
- ・児童によっては、見通しを持ってもらうために、前日に小学校の入学式会場を視察することも、大変有効です。

通常学級支援籍 15 (肢体不自由) **入学式**

【特別支援学校から中学校 (通常の学級) へ】

Oさんの自己紹介



- ・ 肢体不自由特別支援学校の中学部1年に在籍しています。
- ・ 電動車イスを使っています。操作は自分で行います。
- ・ 日常生活では、場面によってはサポートが必要です。
- ・ 自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Oさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成17年度、平成19年度～平成21年度 (4年間)

[中学校]平成22年度～ (1年目)

<支援籍校> ; 中学校 (同じ学校に姉妹がいる)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の生徒との交流を広げる
- (2) 自己理解を深め、将来の進路について考える機会とする

【Oさんの支援籍学習の計画 (主な流れ)】

[実施に向けて]

2～3月	前年度の支援籍の反省会、入学式への参加希望、市教委担当者への打診 中学校への打診及び打ち合わせ
4月	会場見学及び打ち合わせ
入学式	開会前に事前確認、参加

[実施] (※全体)

回数 ; 学期1回 (年3回)

内容 ; 通常の授業

随時	担当者・担任間で、必要に応じて、 電話、FAX等で打ち合わせ
----	-----------------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎 (福祉サービスの利用も検討)
- (付添) 特別支援学校担当者
- (ボランティア) なし
- (その他) 体育館入場のためのスロープを中学校が事前に手作りで作成



入学式 (入場)

【Oさんの支援籍学習（平成22年4月8日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
13:00	登校（受付）	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と一緒に登校しました。体育館で待機。 ・中学校の先生に挨拶をしました。
13:10	事前確認	<ul style="list-style-type: none"> ・入場のコースや座席の確認をしました。
14:00	入学式	<ul style="list-style-type: none"> ・入場は中学校支援籍クラスの最後につく形で、特別支援学校の教員が付き添って入りました。自分で電動車イスを操作しました。 ・新入生呼名では、支援籍クラスの最後に名前を呼ばれました。Oさんは、車イスのため起立することができないので、その場で返事をして挙手しました。また、式の中では他の生徒に合わせて礼をしました。 ・入学式では、上級生が声をかけてくれるなどの交流が見られました。
15:30	下校	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と一緒に下校しました。



クラスに所属して参列

【支援籍学習を行って】

- ・入学式に参加したことで、本人の中に学校への所属感が生まれました。学年の他の生徒の保護者にも特別支援学校のことやOさんのことを知ってもらえました。
- ・入学式での呼名に応えることで、自信を持つことができました。
- ・車イスの移動のために、スロープ等の補助具を中学校が作ってくれたので、スムーズな参加ができました。

【入学式へのスムーズな参加のために】

- ・車イスを使用しているため、座席や移動などに大きなスペースが必要となります。そのため、事前に会場を確認したり、入場の練習をしておくことが必要です。
- ・当日は、本人が見通しを持って入学式に臨めるように、開始の少し前に中学校に行って、雰囲気を感じておくことも大切です。
- ・事前練習を通して、本人が自分でできることと、介助してもらうことを整理しておくことも大切です。



通常学級支援籍 16 (知的障害) 朝学習

【特別支援学校から小学校(通常の学級)へ】

Pさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校の小学部5年に在籍しています。
- ・日常生活では、特にサポートは必要ありません。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。自分の興味のあることなどを友達に話します。

【Pさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成19年度～(4年目)

<支援籍校> ; 小学校(同じ学校に兄弟が通っていて、朝一緒に登校している)

<支援籍学習のねらい>

- (1) 地域の同年代の児童と交流する
- (2) 地域の中で、障害のある子どものことを知ってもらい、理解の推進を図る
- (3) 支援籍を通して、人と関わる力や社会性を育てる

【Pさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

2～3月	保護者からの希望提出
4月～	校内調整会議、候補者決定 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 月2回(隔週)	
内容 ; 朝の活動(業前活動、朝の会)	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
通学班での登校
- (付添) 特別支援学校担任または担当者
(ボランティア) なし



通学班に所属して友達と一緒に登校

【Pさんの支援籍学習（平成20年度の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
7:30	登校	・通学班で登校しました。
7:45	学校着	・教室で荷物整理や着替えなどを行いました。
8:10	校庭へ	・朝の活動が始まるまでの時間、クラスの友達と自由遊びをしました。
8:20	朝の運動	・15分間の朝の活動に参加しました。時期によって、マラソンや運動会の練習などに取り組んでいます。
8:35	朝の会	・教室に移動して、朝の会に参加しました。出席の呼名もされ、最後に挨拶の中で、今日の活動の感想を自分で発表しています。
8:50	下校	・保護者と一緒に特別支援学校に登校しました。

【朝の学習に参加することの長所】

- ・通学班で友達と一緒に登校するので、仲間意識や所属感を持ちやすい。
- ・朝の時間には、教室に自由な雰囲気があり、子ども同士の自発的な関わりが持ちやすい。
- ・活動の流れが基本的に同じなので、特別支援学校の児童にとって見通しが持ちやすい。
- ・朝の時間への参加は、活動時間が短く、特別支援学校の児童にとって集中しやすい。
- ・朝だけの参加なので、付き添いする特別支援学校の担当者の負担が少ない。

【通学班での登校について】

- ・打ち合わせの中で、登校班での通学について小学校に相談。
- ・小学校が住所から通学班を調べ、班長さん宅へ連絡。その後、特別支援学校の保護者から班長さん宅へ連絡。小学校の先生が、通学班の子どもたちに対してPさんを紹介。
- ・保護者の付き添いで、通学班に所属して登校。

【支援籍学習を行って】

- ・継続して行うことで、周りの子どもたちのPさんに対する特別な意識がなくなってきました。
- ・Pさんにとっては、回数を重ねてきたことで、活動の流れが分かり、自然に取り組めるようになってきています。また、突然の変更があっても、対応できるような力が付いてきました。



朝の活動に取り組む児童

間接交流（知的障害）

【小学校（手紙の交換、出前授業など）】

Rさんの自己紹介



- ・知的障害特別支援学校小学部3年に在籍しています。
- ・日常生活では、場面によって介助者にサポートしてもらっています。
- ・自分の気持ちは、身振り、手振りで表現しますが、うまく伝わらない時もあります。
- ・直接交流を目指して、22年度は間接交流を行っています。

【Rさんの支援籍】

<開始年度>；[小学校]平成22年度～（1年目） ※間接交流

<支援籍校>；小学校

<支援籍学習のねらい>

- （1）地域の子どもたちに知ってもらうこと
- （2）次年度、直接交流を計画しているので、そのための準備を行うこと

【Rさんの支援籍学習の計画（主な流れ）】

[実施に向けて]

3月	保護者からの希望提出 校内調整会議、候補者決定 学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

内容；お手紙交換（2回）
特別支援学校担当者による出前授業
ビデオレター

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

（用紙するもの）

ビデオレター、手紙、Rさんの写真
特別支援学校でRさんが作った作品



小学校に送った手紙

【Rさんの支援籍学習（平成22年度の事例）】

月日	内 容	具体的な内容や児童の様子
9月17日	Rさんからの手紙（1回目）	・手紙を作って、Rさんと保護者が小学校に持参しました。
1月	Rさんからの手紙（2回目）	・2回目の手紙を作って、小学校に持参しました。
2月	小学校からの手紙	・Rさんが持って行った手紙の返事として、小学校から返事がきました。
3月	特別支援学校担当者による出前授業	・特別支援学校のこと、Rさんのことを紹介しました。 ・ビデオレターを作成しました。 ・Rさんの保護者に、手紙を書いてもらい、それを紹介しました。

【支援籍学習を行って】

- ・Rさんの手紙を教室内に掲示してもらったところ、保護者が「今度、小学校に行くの？」と声をかけられました。
- ・2回目の手紙を渡しに行ったときに、音楽発表会に招待されました。特に挨拶はしませんでした。Rさんが来ていることに気づいて、先生に知らせてくれた子がいました。
- ・Rさんを紹介する授業では、Rさん紹介ビデオを作成したことで、様子が伝わり、理解が進みました。また、学年全体の児童に直接話ができることで、Rさんが学校に来る期待感を持ってもらうことができました。



【保護者の手紙から（出前授業の中で）】

- ・赤ちゃんの頃の〇〇は、どこにでもいるふつうの赤ちゃんでした。
- ・家では、色んな手伝いをやってくれてとても助かっています。帰宅後は荷物をきちんと片付けて、衣類も洗濯機に入れ、頼むと洗うところまでやってくれます。今は、洗濯物を広げて干す練習をしています。
- ・支援籍の交流は、ずっと楽しみでしたが、不安も大きいです。それでも多くの同じ歳のお友達とふれあうことで、今までできなかったことができるようになるのは、とても大切なことです。

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・間接交流であっても、通常学級支援籍と同じように、学校関係者、市教委関係者も了解のうえで実施したため、特別支援学校と小学校との間で共通理解が図られ、スムーズなやりとりができました。
- ・小学校にRさんのことを紹介するコーナーが設けられたことは大変有効でした。

支援籍学習を行って

聴覚障害特別支援学校 保護者

〇〇の聞こえは、補聴器がないとほとんど聞こえません。補聴器を付けると普通の声の大きさなら音と口の動きで簡単な言葉なら読み取れます。〇〇自身も相手に伝える時の声は、大分はっきりと伝えられるようになってきました。

小学部4年生の時、自分から居住地校交流に行きたいと言い出しました。その時に特別支援学校の周りの同級生の子から楽しかったことを聞いていたからだと思いますが、親の方は、とても心配で、音が聞こえないのに、周りの動きや様子が分かるのだろうか、小学校に行く一か月も前から、ドキドキしていました。受け入れてくれるクラスの先生と必要な持ち物や、昼食などについて細かく打合せをしてもらいました。昼食は、クラスのみんなど同じ給食にしてほしかったので、そのことをお願いしました。学校に行く時の通学班はどこにするか、学校に行った時の下足箱はどこか、教室はどこか、何年何組で先生の名前は何か、〇〇も先生に質問しながら、打ち合わせを終わりました。

一日目の小学校の体験が終わり、迎えに行った帰り道に、学校はどうだったと聞くと、まず「楽しかった。」と返事が返ってきたので、ホッとしました。そのあと、「給食がおいしかった。ハンバーグみたいな物が出て、一番で食べ終わった。」とも言っていました。

それから言った言葉が、「小学校にすーっと通ったら、僕は耳が聞こえるようになるの。」でした。「それは無理だよ。治らないんだよ。」と話しました。

「お金がたくさんあったら治る。」(手術のことだと思うのですが)と言うので、「それも無理だよ。耳の奥がダメになっているから聞こえないんだよ。お金で治るなら、ろう学園のお友達も治っているよ。」と答えました。

「来たか」と思いました。

特別支援学校の幼稚部の時の先生の言葉が浮かんできました。「小学部の高学年になると、何で自分は耳が聞こえないのか親に言う時が来ます。その時に、どう答えて、子どもなりに納得して受け入れてもらうかです。」とっていたと思います。

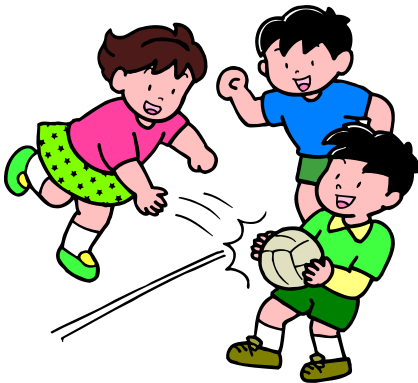
〇〇は、私の言った言葉を受け入れたようでした。その後から自分は聞こえないのだからと納得することが多くなりました。

ろう学園の中だけでは感じ取ることが難しかったと思いますが、交流の中で自分は他の子と違うと思うことで、聞こえないことを意識できるようになったと思います。

最近では、7月2日から3日間交流に行ったのですが、5年生の時に担当して下さった先生が引き続き6年生でも担当でしたので、スムーズに受け入れてもらいました。先生の話し方は、口が大きく開き、はっきりと話して下さるので、〇〇も分かるようです。

勉強の面では、皆と同じ教科書でやっているのですが、内容の早い遅いはあっても、あまり変わらずにやれています。新しい内容の所に入って、理解するのに難しい時などは去年からろう学園のお母さんたちがボランティアで、ノートテイクに入ってくださいるので、分かりやすいと言っていました。

クラスの仲間も障害があるからどうこうというわけでもなく、自然体で受け入れてく



れ、休み時間などは、仲間が集まりドッジボールをやったりして楽しんでいます。今一番楽しいのは、皆と一緒にやるドッジボールと言っています。10月にまた、お世話になります。日数は短いですが、いろんな体験をし、成長して行ってほしいです。

支援籍学習を行って

肢体不自由特別支援学校 保護者

私の娘は、車イスに乗り、手足の動きが不自由で、発声はあるけれど発語は無く顔の表情でコミュニケーションをとっている10歳の女の子です。

A市に住んでおり、B特別支援学校へ通学しています。その事で起こる不安は、地域とのつながりが乏しくなることだと思いました。将来、地域で生活していく娘を一人でも多くの同世代の子どもたちに知ってほしい、そんな気持ちから支援籍学習を希望しました。

当初は、「学校生活が始まったばかりの一年生よりも、落ち着いた高学年への交流が良いのでは？」と相談したところ、担当の先生より、「長い目を見たとき、一緒に成長していける、同学年への交流が良いのでは。」と勧められ、その時私は、支援籍が自分の娘だけのものではないということに気付かされました。

C小学校の子どもたちは、事前に学習で娘のイメージを膨らませておいてくれた様子で、たくさんあるはずの「なぜ？」という疑問で私たちに質問攻めにするのではなく、娘に会い、感じて、考えてくれているのが良く分かり、安心し、嬉しく思いました。

日常生活の変化は、なかなかクラスのお友達の顔と名前が覚えられない私をよそに、スーパーなどで声をかけてくれたり、妹の幼稚園の行事に参加していると静かに傍にいて手を握ってくれたり。近所の子どもたちに娘を紹介することがなかなか上手にできない私の代わりにC小学校のクラスメイトが紹介してくれたりしました。

授業回数が増えるたび、子どもたち自ら、「こんな風にしたら、一緒にできるよ！」と考えてくれる姿が印象的でした。授業の前から手紙を書いて手渡してくれる友達もいます。

三年生になると、クラス統合があり、約20名から40名になり、教室内での車イスの移動が難しくなりましたが、授業を工夫したり、特別教室の利用などで対応できました。

四年生では、英語の授業を受けました。コミュニケーションがメインと言うことで、多くのクラスメイトが英語での自己紹介と握手を代わる代わるしてくれることに、娘は目を丸くしたり、ニヤッと笑ってみたりしてました。経験のないスピード感や言葉を受け入れようとする“力”が、娘についてきていると感じました。また、娘は、マイクを通した声が苦手、音楽にもびくついてしまうのですが、音の響く体育館でクラスの皆が作った歌とダンスを披露してくれたときは、泣き出すどころか、ビックリしながらも良く聞いて見ることができました。特別支援学校での毎日では、教室に先生方の元気な声が響くというのが日常で、同じ歳のクラスメイトの40名からなる言葉のシャワーは、とても刺激的なことだと思いました。

一番最近の授業では、林間学校に向けたダンスの練習をしました。娘は、前の週が宿泊学習だったため、ジェンカやマイムマイムを学習したばかりで、曲がかかると、「知っている！！」という表情でずっと笑ってました。

こんな様子で毎回取り組んでいる支援籍ですが、今後日数を増やしていきたいとは思っていません。特別支援学校で、ゆっくりとした自分のペースで生活が守られて自分を表現できることの経験が積み重ねられているからこそ、C小学校の元気で、力強く、やさしい友達と多くの“初めて”が待っている支援籍でにっこりとした良い表情が出せるんだと思います。

この素晴らしい時間を創ってくれているクラスメイトと先生方に感謝しています。これからも、お互いが成長しあえる支援籍を続けていきたいと思います。



支援籍学習を行って

知的障害特別支援学校 保護者

支援籍の目的は、「息子を知ってください!」ということから始まりました。知ってもらうのが目的です。

妹が地域の小学校に通っていますが、息子は別の学校(特別支援学校)に通っていて、妹の友達に会うと、何でお兄ちゃんは違う学校に通っているの?何でお兄ちゃんはしゃべれないの?兄弟いたの?病気なの?自閉症って何?障害って何?など、いろいろ質問され、妹がいっしょうけんめい友達に説明していました。

妹の友達や同じ学校の子に、兄は存在すら知られていない事や当時小学校1、2年だったのに、自閉症の説明をする妹を見て、皆と同じ地域や本当は同じ小学校に入るはずの子が住んでいる事、それが兄だという事、障害があっても、話せなくても、皆とコミュニケーションが取れなくても、皆と同じように優しい心や、嬉しさ楽しさ、つらさ、苦しさなどの感情や気持ちを持っていることを知ってほしかった。

支援籍に行くまで、子どもたちの反応はどうか、息子の反応はどうか、妹の反応はどうか、不安ばかりでした。特に、父親は大反対。妹がイジメにあうんじゃないかと心配していましたが、私はそうなっても息子がいて、娘がいて、この親子4人が家族。居ないことには、一生できないし、その事であつらい事が娘にあったとしても、受け止めてもらうしかないと思い、一歩を踏み出しました。

やらない後悔より、やる方が、同じ後悔をするなら、納得がいくと思いました。妹にも兄が支援籍に行く事をどう思うか聞いたところ、とても喜んでいて、兄が学校に来たら、兄の所へ遊びに行くと言って、当日の休み時間に兄に会いに来ました。

初めての支援籍、息子はパニックになってしまいましたが、子ども達も事前学習をしてくれたおかげか、叫ぶ息子に一生懸命何かを伝えようと、あの手、この手で自主的にかかわろうとしてくれました。その時は、何を不安に思っていたのだろう?子ども達はこんなに素直に受け入れて、かかわろうとしてくれていると感じ、涙が止まらなくなりました。その現場に居ないと、この思いは伝わりにくいと思いますが、心の底から感動、感激、やってよかったと思い、子ども達にも感謝しました。

その後、家に来て公園に行こうと誘ってくれる子どもや、息子が散歩していて、パニックになって、泣き叫んで道を歩いていると、一緒に「〇〇くん大丈夫？」となくさめ、声をかけながら、家まで歩いてくれたり、逆に出かける時に叫んでいても、途中まで、一緒に声をかけて歩いて見送ってくれる子が少ないながらも、出てきました。

声をかけてこなくても、私の顔を見ると、あいさつしてくれる子や、私に「〇〇くんは？」と声をかけてくれる子もいます。かつては、道で息子が叫んでいると、遠くから子ども達が不思議そうに視線を向けて、目で息子を追っていましたが、今は、知ってくれた子は気にもならない様子です。

地域の子ども全員が息子を知ってるわけではないので、視線を向けられる事はありますが、支援籍での子ども達の態度や手紙が励みになって、知ってくれば、そんな思いは減るんだ、知らないからだと言う事も分かり、どんどん地域の中へ参加するべきだと思いました。

支援籍での問題は、回数が少ないことかな？と思いますが、息子はたった2回の支援籍でしたが、内容の濃いものとなり、回数ではないんだと思いました。支援籍へ行くまで、お互いの前段階の取り組み方、支援籍の成功のカギとなると思います。子ども達は差別はしません。大人の方が差別や思い込みが強いと思います。

支援籍でいただいた手紙は、一生の宝物です。そして、子ども達はこんなに色々理解し、考えていると言う事も知り、地域で生きていく為のやる気、喜び、元気、色々なものをもらいました。不安で支援籍に行かない人がいたら、ぜひ行って見てほしい。必ず、成果は出ます。

息子は小学部の高学年で2回の支援籍でしたが、これから行こうと思っている気持ちがあるなら、ぜひ低学年から長い目でやってほしいです。2回で成果が出るのなら、長く行けば、もっと、もっと子ども達と仲良くなれるはずです。迷っているなら、ぜひ体験していただきたいです。



支援籍学習を行って

知的障害特別支援学校 保護者

特別支援学校小学部6年生男子の保護者です。息子が支援籍を始めたのは、小学部2年生の時でした。本当に何の前例もないまま始まったので、かなり不安はありましたが、最初は音楽の授業を一緒に受けさせていただきました。案の定、息子はほとんど席につき、教室をうろうろしながらも授業を進めて下さって、たまに席についたりすると、となりの子が教科書を見せてくれたりしました。とてもいい光景でした。

しかし、やはり息子には普通の授業は無理ということも分かりました。次からは、授業ではなく、給食や休憩時間を利用して、参加する事にしました。普通に給食を食べるだけでしたが用意する時など子供たちから「お盆持つんだよ」「ここにのせるんだよ」と声をかけてもらったりしました。すすんでかかわってくれる子、遠巻きに心配してくれる子、興味津々な子と様々でしたが、目の前に重度の障害者を見慣れてない子供たちでもあまり物怖じせず、普通に接してくれるので、とてもすごい事だなと思いました。

私は自分の学生時代を振り返って、こんな風に、障害者と接することが無かった事を思い出します。多少、勉強が遅れる子はいましたが、それは障害があるからだよという説明もされたことがなかったですし、障害者とは目が見えなかったり耳が聞こえなかったり、歩けなかったりする人の事なんだろうと漠然と思ったものです。

はっきり言えば、息子を生まなければ、いろんな障害者がいる事を理解しようなんて事は無かったのではないかと考えています。もし、学生の頃に、少しでも説明があったり、かわりがあったらとも思っていたので、今回の支援籍はとてもいい制度だと思いますし、始めようとしたきっかけでもあります。

4年間の中での数回ですが、きっと息子と会って、かかわってくれた子供たちは、かわらなかつた子供たちよりも障害者の認識を別の角度で見えてくれる力をつけてくれているのではないかと信じております。登下校の時、「あっ、〇〇君のお母さんだ」と声をかけてくれたり、遊びに来てくれたりした事もありました。難しいことはいらな思います。ただ、会って、見て、かかわってくれるだけでいいんだと思います。

話を聞くより、映像で観るより、目の前に本物があるという事実は衝撃的で記憶に残りますよね。いろんな影響があると思います。でも、悪い影響にはならないと思っております。

たくさんの子がこういう体験をたくさんしてほしいと思います。少しでいいのです。でも、何かのきっかけにはなるかもしれません。今の状況ですと、きめ細かい対応というのは難しいと思われまので、徐々に先生の数を増やして頂いたり、学校の説明をして頂いたり、多岐に渡り手を広げていただけると有難いと思っております。

この制度は、健常の子、障害のある子、双方にメリットがあります。続けて頂きたいと思います。

他の保護者の方からは、同伴で行かなければならない事、年に1、2回しかいけない事が参加しない理由に上がっておりますが、ぜひ、いろんな方の声を聞いて、いい方向に行ってほしいです。



支援籍学習を行って

知的障害特別支援学校 保護者

支援籍を行うにあたって、私はいくつかの事で悩みました。障がいをみんなに公表するのはどうだろうか、友達から差別の目で見られてしまうのではないか、入学前の体験時につばはきをよくしていたので、また行く事によってそれが始まってしまわないか等です。

けれど、既に支援籍をやっていたお母さん達から色々と話を聞いてみた所、プラスの声ばかりでした。例えば、近所であったら挨拶してくれたり、みんなに子どもの事を知ってもらえるいい機会になるという事でした。

我が家の近くには小学生があまりいない為、娘の存在を知る人はほとんどいないと思います。もし、迷子になってしまった時に顔と名前を知っててもらえたら、早く発見することができたり、変な子じゃなくてハンデがあるだけなんだとってくれるのではないかと考えるようになりました。いっぱい悩みましたが、やらないで後悔するより、やって後悔する事にしました。

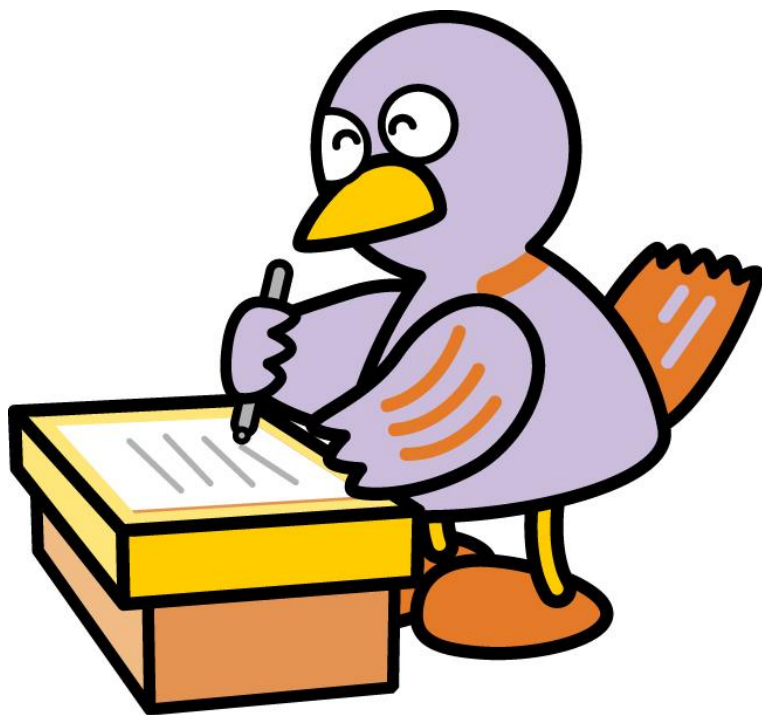
小学校に行ってみたところ、みんな素直でいい子ばかりでした。やはり、小さいうちから色々な子がいる事を知っておくことは大切なのではないのでしょうか。娘の下には妹がいますが、生まれた時から一緒なので「お姉ちゃんはやべれない」という事が普通です。保育園のお友達にも自分からそう話している様です。世の中には、色々な人がいて、絵を描くのが得意な子もいれば不得意な子がいる。娘には不得意な事が少し多めにあるだけなんだとってもらえるようになって欲しいと考え、支援籍に参加しています。

学期に1回の割り合いでやっていますが、楽しい時間を過ごすには充分だと思います。
自分の学校や生活のリズムを大切にしながら、引き続きやっていきたいと思います。
これから、どこかで会うことがあったら、声をかけてもらえると嬉しいです。



特別支援学校支援籍

(小中学校から特別支援学校へ)



埼玉県のマスコット「コバトン」

特別支援学校支援籍 1 (視覚障害)

【小学校(通常の学級)から特別支援学校へ】

Aさんの自己紹介



- ・ 小学校5年に在籍しています。
- ・ 弱視です。
- ・ 小学校では、拡大教科書、単眼鏡、ルーペ、拡大読書器を使って学習しています。

【Aさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度～(5年目)

<支援籍校> ; 視覚障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 小学校の授業の補習(算数、国語、図形、家庭、その他コンパスの使い方など)
- (2) 視覚障害者のための補助具(単眼鏡、ルーペなど)の使い方を学ぶ
- (3) 必要に応じて適切なコミュニケーションがとれるようにする

【Aさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3月	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談及び相談
4月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 毎週1回(1.5時間)

内容 ; 自立活動、教科学習の補習

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
毎回	学習の内容については連絡帳使用
年1回	特別支援学校担当者の小学校訪問

[実施後]

次年度	年度当初に前年度の反省と今年度の方針を関係者で話し合う
-----	-----------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) なし

(ボランティア) なし

(その他) 個別学習のための教室で学習する



日本地図のパズル

【Aさんの支援籍学習（平成22年11月8日（月）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
13:50	登校	・保護者と一緒に登校しました。
14:00	個別学習	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの取り方の学習を兼ねて、Aさんが近況を話しました。 ・社会（地図、県庁所在地）の学習をしました。 ・日本地図の学習をパズルで行いました。大きめのパズルですが、図柄を判別しにくいいため、はめ込むのは苦労しました。また、県庁所在地をパソコンを使ってブラインドタッチで打ちました。 ・漢字をカードのゲームを使って学習しました。 ・立体の模型を使って、手で触った感じで、形を頭にイメージするという学習を行いました。
	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・小学校で学習している教科を補習する内容を行っていることで、小学校での学習に対して自信が持てるようになりました。
- ・社会科は、地図の読み取りでは情報量が多く難しいということで、パズルなどを利用して学習しています。
- ・家庭科では、見えにくさから課題となっている調理やミシン掛けなどについて、学習しています。視覚障害の特別支援学校では、ミシン掛けで布を真っ直ぐに縫えるような補助具を使っているため、小学校の先生にも補助具を紹介して、小学校でも使ってもらっています。
- ・小学校の視覚障害に対する理解が進みました。
- ・コミュニケーションの課題では、学習の中で自分から話す場面を設定しました。



県庁所在地をパソコンで入力する学習

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・学習した内容が、小学校で生かされるようにすることが大切です。また、視覚障害に対する配慮の仕方などを小学校と特別支援学校で共有することが重要です。
- ・小学校の先生や保護者とのやり取りは連絡帳で行います。本人のニーズに合った内容となるよう、連携を図ることが大切です。

特別支援学校支援籍 2 (聴覚障害)

【小学校(通常の学級)から特別支援学校へ】

Bさんの自己紹介



- ・小学校4年に在籍しています。
- ・難聴です。
- ・日常生活では、特に介助は必要ありません。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。通常の生活では手話は使っていません。

【Bさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成20年度～(3年目)

<支援籍校> ; 聴覚障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 聴覚に関する専門的な学習を受けること
- (2) 同じ障害(聴覚障害)の同年代の児童との触れ合いや交流を通して、「共に生きる」ということを児童自身が感じる

【Bさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	---

[実施]

回数 ; 学期1回(1回に2日間連続で実施)

内容 ; 一日の授業にそのまま入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 一人で登校
(途中まで保護者による送迎)
- (付添) なし
- (ホラソフイ) なし



社会科(先生は手話と言葉で授業)

【Bさんの支援籍学習（平成22年11月1日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
8:00	登校	・途中まで保護者と一緒、その後一人で登校。8時頃には、他の児童と一緒に校門が開くのを待っていました。
8:50	国語（業前学習） 1 算数 2 社会 業間休み 3 国語 4 音楽 給食 5 6 図工	・通常の日課にそのまま入りました。 ・授業によっては、クラスを移動します。 ・算数は割り算の仕方を学習しました。小学校と同じ教科書を使っていたため、スムーズに学習に取り組みました。 ・社会科は、「暮らし」について学習しました。使っている教科書は違いましたが、同じような内容のため、特に違和感はなく学習に参加できていました。クラスメイトに自分から声をかけて見せてもらっていました。
15:05	下校	・同じ方向に帰る児童と一緒に下校し、途中から保護者と一緒に帰りました。

【支援籍学習を行って】

- ・聴覚管理ができました（聴力の低下がみられない）。
- ・本人や小学校の聴覚障害特別支援学校に対する理解が進みました。
- ・年数回の学習の機会ですが、自信を持って聴覚障害特別支援学校のクラスの一員として学習に参加しています。
- ・同世代の同じ障害の児童と一緒に生活することで、本人の自分自身の障害についての理解が進みました。
- ・同じ方向に帰る特別支援学校の児童と一緒に下校するなど、支援籍学習を通して、



特別支援学校の中に、友達がたくさんできました。



算数の授業

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・特別支援学校の少人数の教室に入るため、他の児童との関係作りは大変重要です。
- ・一日の授業にそのまま入るため、教科によっては、教科書が異なる場合もあり、その時は、誰かに見せてもらう等、臨機応変に対応していくことが大切です。

特別支援学校支援籍 3 (聴覚障害)

【中学校(通常の学級)から特別支援学校へ】

Cさんの自己紹介



- ・中学校3年に在籍しています。
- ・難聴です。
- ・日常生活では、特に介助は必要ありません。
- ・会話や英語のヒアリングなどでは、時々聞き間違えてしまうことがあります。

【Cさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成16~19年度(3年間) [中学校]平成20年度~(3年目)

<支援籍校> ; 聴覚障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 中学校での学校生活をよりよく送れるように生活面、学習面で支援すること
- (2) 聴力が低下しないように聴覚管理をすること
- (3) 自分の障害について知ると共に、周囲の人に障害について理解してもらうこと

【Cさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	---

[実施]

回数 ; 週1回(1時間)	
内容 ; 自立活動、教科学習の補充、聴力検査	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 一人で登校
- (付添) なし
- (ボランティア) なし
- (その他) 個別学習用の教室で学習



情報保障についての学習

【Cさんの支援籍学習（平成22年11月8日（月）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
17:00	登校	・一人で登校しました。
	[自立活動] ・情報保障に関する学習 ・中学校での学習の補習	※授業の内容は、その日によって異なる。 ・日常生活や学習上で聞き取りに困った時の、情報保障の手段についての学習をしました。 ① 授業の内容を簡単にまとめて、情報保障をする手段としての要約筆記について ② 英会話のヒアリングをサポートする機器 ③ パソコンと小型ゲーム機を使った要約筆記など ・事前に学習する教科が決まっているのではなく、中学校で学習する中で、よく聞き取れなかったものなどの確認などを含めた補習をしました。 ・分からないことなど積極的に質問し学習していました。
18:00	下校	・一人で下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・聴覚管理ができました（聴力の低下がみられない）。
- ・本人の自分自身の障害についての理解が進み、中学校の授業等で聞き取りが難しかったことなど、担当する先生にきちんと状況を伝えることができるようになりました。
- ・中学校の先生に聴覚障害の生徒に対する理解が進みました。
（特別支援学校が作成した聴覚障害に関するリーフレットなどを活用して、周囲の人たちへの理解推進を図りました。）
- ・特別支援学校で聴覚に関する学習を受けている中学生グループのリーダーとなったことで、自信が持てるようになり、学習に対しても、更に前向きに取り組めるようになりました。



教科学習の補習（理科）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・学習の内容を、本人や保護者と良く相談して、きちんとニーズに合わせていくことが大切です。また、中学校での生活に活かされるものであることも大切です。
- ・中学生の場合は、内容についても本人とよく話し合って決めていくことが重要です。

特別支援学校支援籍 4 (肢体不自由)

【小学校(特別支援学級)から特別支援学校へ】

Dさんの自己紹介



- ・平成21年度まで小学校に在籍し、特別支援学校支援籍を受けていました。現在、特別支援学校小学部5年に在籍しています。
- ・電動車イスを使用しています。自分で操作します。
- ・日常生活では、サポートが必要な時もあります。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。

【Dさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成19~21年度(3年間)

<支援籍校> ; 肢体不自由特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 自立活動の学習を通して関節の可動域を広げるなどして、日常生活を豊かにする

【Dさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	---

[実施]

回数 ; 月1回(1日)

内容 ; 自立活動、課題別学習等

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) 小学校の担任
- (ボランティア) なし



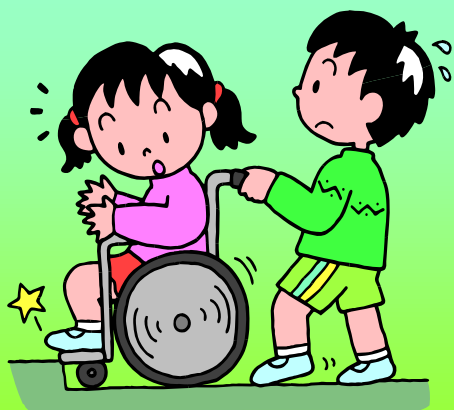
自立活動(特別支援学校支援籍)

【Dさんの支援籍学習（平成20年12月10日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
11:00	登校	・保護者と一緒に登校しました。
	自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の担任の先生と保護者（母）と一緒に授業に参加し、自立活動の内容について説明を受けました。 ・学習は、自分の体の様子を知り、姿勢を整えることや手足の使い方を高める内容です。 ・授業を始める時に、全員が本時の自分の目標について発表しました。Dさんも一緒に参加しました。 ・初めに、自分の身体の様子が良く分かるように、身体全体の力を自分から抜く学習をしました。次に、自分の姿勢に気付き、自分から姿勢を整えたり、手足を上手に使えるように自分の課題にチャレンジしました。
11:45	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】[特別支援学校支援籍]

- ・自分と同じような障害のある児童と一緒に学習することによって、自分自身の障害に対する理解が進みました。
- ・特別支援学校の授業の流れの中で、児童に合わせて、ゆっくりと学習に取り組めたことで、課題の改善が図られました。
- ・小学校の担任の先生と保護者が学習と一緒に参加したので、学習している自立活動の内容について、直接伝えることができました。



足首の弛緩（特別支援学校支援籍）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・自立活動などの学習を効果的に行うためには、障害の状況をよく把握しておくことが大切です。
- ・自分の身体の入れたり、抜いたりする学習は、本人自身が理解しながら、学んで行くことが大切なので、本人や保護者に学習の内容を良く説明して行うことが重要です。

特別支援学校支援籍 5 (肢体不自由)

【小学校 (通常の学級) から特別支援学校へ】

Eさんの自己紹介



- ・ 中学校1年に在籍しています。
- ・ 車イスを使用しています。移動するときは介助者のサポートが必要です。
- ・ 日常生活では、介助者にサポートしてもらいます。
- ・ 自分の気持ちは、声かけに対する返事や表情で表したりします。

【Eさんの支援籍】

<開始年度> ; [中学校]平成22年度～(1年目)

<支援籍校> ; 肢体不自由特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) コミュニケーション能力の向上を図ること
- (2) 摂食動作の充実を図ること

【Eさんの支援籍学習の計画 (主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 中学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	---

[実施]

回数 ; 月1回 (1日)	
内容 ; 自立活動、課題別学習等	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度について相談
-----	---------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎や送迎サービスの利用
- (付添) 中学校の介助員
- (ボランティア) なし



膝の弛緩に取り組んでいる (自立活動)

【Eさんの支援籍学習（平成22年12月9日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
9:30	登校	・送迎サービスの方と一緒に登校しました。
	朝の会	・クラスの生徒が車座になり朝の会を行いました。日付、曜日等の確認や呼名、出席確認をしました。 ・支援籍学習にも慣れてきたためか、Eさんは気負うことなく参加していました。
	自立活動	・自立活動では、足首、膝、肩等の弛緩の学習に取り組みました。部分的に、固くなってしまっているところもあり、Eさんにとっても大変有効な学習となりました。
	課題学習	・課題別の学習は、絵本を使った読み聞かせをベースにした活動を行いました。音楽やヨーヨー釣りの竿に興味を持って学習に取り組みました。
	給食	・給食では、摂食動作の充実をねらいに、自分でスプーンを使って食べ物を口に運ぶ課題に取り組みました。
	午後の活動・帰りの会	・本の読み聞かせの学習にも取り組みました。
15:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習の回数を経るに従って、特別支援学校の先生やクラスメイトの雰囲気慣れ、緊張せずに授業を受け入れられるようになってきました。
- ・学習の中で行っている活動や人に対して、注視できるようになりました。
- ・コミュニケーション面では、特別支援学校のどの先生が声をかけても、表情と返事で応えられるようになってきました。
- ・美術や体育などの学習に参加し、活動の様子を注視したり、体を使って取り組むなど色々なことに対して、興味関心が広がってきました。そのため表情も良く、顔がしっかりと上がっていることが多くなりました。



意欲的に学習に取り組む（課題学習）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・保護者との連絡を密にして、本人の体調面についてしっかりと把握することが大切です。
- ・支援籍学習を実施したあと、報告書を作り、中学校との共通理解を図ることが大切です。

特別支援学校支援籍 6 (知的障害)

【小学校(特別支援学級)から特別支援学校へ】

Fさんの自己紹介



- ・小学校6年に在籍しています。
- ・自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍しています。
- ・日常生活では、場面によって介助者にサポートしてもらいます。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えますが、うまく伝わらない時もあります。集団での活動は得意ではありません。

【Fさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成19年度～(4年目)

<支援籍校> ; 知的障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 自分の気持ちを相手に伝えたり、やりとりする力の向上を図ること
- (2) 集中して学習に取り組める力を身に付けること
- (3) 身体の使い方が上手になること

【Fさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

4月	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談
4～5月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 月2回

内容 ; 自立活動

随時	毎回の学習時に連絡帳を使用し、保護者、小学校担任と連携
----	-----------------------------

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) なし
- (ボランティア) なし
- (その他) 連絡帳の使用



数の学習

【Fさんの支援籍学習（平成23年2月28日（月）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
16:00	登校	・保護者と一緒に登校しました。
	最近の話 学習予定について	・担当者と小学校のことなどの話をしました。
	文字の学習	・文字や絵カードで本日の学習予定を確認しました。
		・絵カードを使って、単語を選んだり、書いたりしました。 マスの中に字が収まるように意識して書く練習をしました。
	身体の学習	・身体の使い方が課題なので、体操や片足跳び等を行いました。 立った姿勢で靴下をはく練習をしました。
	数の学習	・5までの数、10までの数をタイルや数字板を使って学習しました。
	自由遊び	・自分がやりたい遊びを、自分で担当者に伝えるというルールで自由遊びをしました。
17:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習で、個別に学習をする機会を持ったことで、一つ一つの活動に落ち着いて取り組めるようになりました。
- ・Fさん自身がやりたいことだけではなく、今まで取り組んできていないような新しいこと、苦手としていることにも取り組めるようになり、受け入れる気持ちに幅がでてきました。
- ・相手をしっかり見たり、話を聞くなど、学習に対する集中力が付いてきました。
- ・教科的な学習は、支援籍学習の時だけでなく、宿題として、家庭でも取り組むようにしたことで、定着が図られました。



身体の学習（ケンケン）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・保護者、小学校の担任との連携がとても重要なため、連絡帳を使用しています。特別支援学校からは毎回の学習の様子を伝え、保護者や小学校の担任からは、家庭や学校の様子を記入してもらい、お互いに共通理解を図りながら進めました。

特別支援学校支援籍 7 (知的障害)

【中学校(特別支援学級)から特別支援学校へ】

Gさんの自己紹介



- ・ 中学校3年に在籍しています。
- ・ 知的障害です。
- ・ 日常生活では、特に介助者は必要ありません。
- ・ 自分の気持ちは、言葉で伝えます。文章を書いたり読んだりすることは、あまり得意ではありません。

【Gさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成19年度(1年間) [中学校]平成20年度~(3年目)

<支援籍校> ; 知的障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 活動の流れを理解して、自信を持って取り組めるようにする
- (2) 文字や文章を書くときに形や大きさを意識して書けるようにする
- (3) 複数の動作のやり方や手順を覚えながら、相手に合わせて行動する力を高める
- (4) 将来の生活に必要な力(計算する、時間、電話など)を高める

【Gさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

4月	保護者からの希望提出 中学校担任等と面談
4~5月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 月2回	
内容 ; 自立活動、部活動	
随時	毎回の学習時に連絡帳を使用し、保護者、小学校担任と連携

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) なし
- (ボランティア) なし
- (その他) 連絡帳の使用



机上での学習(自立活動)

【Gさんの支援籍学習（平成23年度の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
16:00	登校	・保護者と一緒に登校しました。
	最近の話 学習予定について	・担当者と中学校のことなどの話をしました。 ・文字や絵カードで本日の学習予定を確認しました。
	作文の学習	・「最近頑張っていること」等をテーマに書きました。初めに、ポイントとなる言葉をあげ、次に具体的な内容を書きだしてから、まとめる形で作文にしました。 ・文字を書くときには、マス目のある用紙に書きました。
	身体の学習	・身体の使い方と複数の動作のやり方や手順を覚えながら行動する力を高めるために、ルールを設けた片足跳びの学習をしました。紙に書いてある手順書を覚えてから、決められた通りにケンケンをしたり、言葉だけの指示で覚えてケンケンをしたりしました。 ・ジャンプの時の身体の使い方も上手になりました。
17:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習で、Gさんが一つ一つの活動に見通しを持って取り組めるようにしたことで、自信がつき、学習に対してとても意欲的になりました。そのため、以前は失敗したり、間違えたりすることを、Gさん自身も、とても気にしていましたが、学習を重ねる中で、「間違えちゃった」など自分で言えるようになりました。
- ・身体の使い方にぎこちなさがありましたが、色々な動きを学習する中で、バランス良く跳んだり、身体をコントロールすることができるようになりました。
- ・やりとりでは、相手を意識して合図を待つことができるようになりました。
- ・支援籍学習を通して、学習内容がレベルアップしました。



身体の学習（自立活動）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・特別支援学校の担当者、保護者、中学校の担任の連携を図ることが重要です（連絡帳の活用）。
- ・それぞれの担当者が、お互いの学校を訪問して、授業を参観する機会を持つようにすることも大切です。

支援籍学習を行って

小学校特別支援学級 保護者

息子は自閉症です。小学校の特別支援学級へ通う5年生です。息子は3才児検診の時、ちょっとおかしいとチェックに引っかかりました。それから、半年間、市の障害児の教室に通いました。月2回、集団で体操をしたり遊んだりしていました。本当に嫌がって泣いてばかりでした。特に他人に触られたりするのを嫌いました。その後、保育所へ障害児枠で入所し、2年間お世話になりました。 (中略)

特別支援学校支援籍を受け始めてから、1年と5カ月になります。この制度については、特別支援学校の父兄である友だちから聞いて知りました。それがきっかけです。

小学校に上がって、息子の問題な状態がよりはっきりしてきました。授業に参加していない。「聞いていないようで聞いています」とも、先生から言われましたけど、それでも困ると思いました。みんなで何かやりましょうという時に何も参加しないのでは、何にもなりません。運動の時も、一人すみっこに行って休んでいたり。

このままじゃいけないのかもしれない、思ったりもしました。でも、どうしたら？解決策などありませんでした。そこで、この制度の話を目にしました。3年生の春です。なんて良い話、と。 (中略)

特別支援学校支援籍学習は、最初、国語や算数などのお勉強的なことをやるのかと漠然と思っていました。面接でお話をして、やりとりとかルールを覚えましょうと言われ、あれ？と拍子抜けしたのを覚えています。でも、先生の言う、それが正しかったことを後に実感します。やり取りを学ぶ、ルールを覚える、相手に合わせる、そういったことが、全ての基本だったからです。 (中略)

この学習を始めて、息子の成長には驚くものがありました。もちろん、それ以前だって成長はしていたのですが、この1年は急成長という変化だったと思います。勉強面も運動面もコミュニケーション面も、相乗効果で伸びているようです。

まず、やらなければならないことが分かって来て、勉強する姿勢が出来てきました。これは、特別支援学校支援籍学習の賜物ではないかと思っています。家でも勉強することが出来るようになりました。それが本当に嬉しかったです。

以前なら、座って取り組んだり、嫌なことを我慢してやることは出来なかったもので、家での勉強など考えられないことでした。 (中略)

おかげで今は、平仮名、ゆっくりですが、読めるようになって来ています。見て書けるようにもなって来ています。文字が入れば文化が入ると言われ、親も楽しみに became ました。今は、家で、数字もちょっとやっています。でも、数の概念が分かってないみたい

で、文字も数字もごっちゃになっている感じです。これも地道に続けるしかないんだと思います。学校でのお勉強のノートを見せてもらおうと、みっちり埋まっていて、本当によくやっていることに頭が下がります。家でも、それを少しでも補えたらと思って、やっていきたいです。

次に、動作模倣が出来るようになってきました。

息子は、見て真似をするのが大の苦手でした。三つの積み木を、相手が積んだのと同じ形に積むことさえ、ずっとできませんでした。ひもにビーズを通すのに、相手と同じ配列で入れることが出来ませんでした。支援籍学習では、スピーテンという、カラフルな木の球を棒に刺す教材をやっていたのですが、図を見ながら、それと同じ色の配列で刺しているのを見て、びっくりしました。

春の運動会では、ラジオ体操の時、それらしい動きをしているのを見て感動しました。以前は全然動けなかったんです。 (中略)

もう一つ、特にコミュニケーション面が伸びました。以前は、親とか、ごく限られた人以外は、息子の中には存在していないかのようなようだったのに。小学校に上がっても、友だちは、意識の外だったと思います。それが、今は、自ら進んでお友だちに関わりに入っています。ちょっと関わり方に難ありではありますが、鼻を触るのが大好きで嫌がられています。まだまだ、一緒に遊んだりするのは上手くないと思うけど、どんどん出来るようになってほしいなと思います。

言葉もぐんと増えて、会話も成り立って来ています。

誰が、いつ、どこで、何を、という質問も、少しずつ答えられるようになっていきます。お風呂で、パパに、「今日の給食何食べた？」と聞かれているのですが、だんだん答えるメニューが詳しくなってきました。 (中略)

支援籍学習は、とても良いものだと思います。月に2回やってもらえることも、良いです。間隔が空くと効果が半減するような気がします。支援籍学習のような、素晴らしい機会が、どんどん増えて行ってほしいと思います。こういうサポートを必要としている子どもたちはたくさんいると思います。うちは、今年2年目ですけど、出来ることなら、もっともっと続けて受けたいというのが本音です。

最後に、この支援を受けられたことを心から感謝しています。特別支援学校の先生と小学校の先生が、息子に、とても愛情を持って接して下さっているのを感じていますし、両先生が、息子を伸ばしてやろうと連携して、力を尽くしてサポートして下さっていることを、とてもありがたく思っています。

注目・集中することができるようになれば、もっと伸びると言われました。彼なりの、ゆっくりでも、留まらない成長を願って、家庭でも頑張りたいです。

行けるところまで！

支援籍学習を行って

中学校特別支援学級 保護者

我が家には二人の子供がおります。

特別支援学校に通っております、中学部3年になる長男と中学校の特別支援学級に通っております中学2年になる次男です。支援籍学習でお世話になっておりますのは次男です。

支援籍学習を知るきっかけになったのは、上の子どもが小学部の時から特別支援学校にお世話になっております関係で、家庭に持ち帰りました“特別支援だより”というお手紙でこのシステムを知りました。そういった意味では、情報がたくさんあった事、保護者同士の話題にも多くのぼっていたように思います。

当時、次男は小学6年生でした。5年生までは通常の学級に通い、6年生から特別支援学級にお世話になっていました。

次男にも障害があるのでは…と思うようになったのは就学前でした。その時はボーダーにあると言われておりましたので、沢山の子ども達の中で刺激を受け、得るものがあるのでは…と思い普通学級への就学を選びました。ところが、とにかく大きな事から小さな事までトラブル続きの毎日でした。

私としては、なぜトラブルになってしまうのか分からず、とても戸惑いました。なぜ戸惑ってしまったのかと言うと、家庭の中では問題なくすごせてしまっていたからです。問題が山積みで、それが嫌でも目に付いてしまう上の子に比べて、当時の次男は“言葉が少し遅れている様である”とか“理解力が少し乏しいようである”とか、授業参観や夏休みの宿題などで、向き合った時に感じる学習面のつまづきなど、断片的なことしか分かりませんでした。実際は手のかかる上の子のフォローまでしてくれる次男に問題点を感じる事ができませんでした。

それどころか、育てやすいとさえ、感じていた様に思います。

家庭の中では問題がなくても、学校では次々と問題が起こりました。次男をつれてお詫びに伺った家は30軒を超えておりました。その頃から、問題が起こると私が叱り、なぜ叱られているのか分からない状態の次男がそこに居る…という悪循環が始まり、自分も次男もボロボロになってしまっていくのが分かりました。

次男にとって、ハードルになっていることが何なのか…なぜトラブルになってしまうのかを知り、しっかりと支援していかななくてはいけないかもしれない…と思いはじめ、悩んでいた時に支援籍学習の事を知りました。ぜひに…と思い、手続きをとらせていただきました。

実際に支援籍が始まったのは小6の終わり頃だったかと思います。担任の先生と、授業に取り組む姿を参観させていただくと…うその様につまづいている部分がはっきりと

してきました。上手く表現できないのですが、気持ちの上では、点と点が線になる…という感じでしょうか…

例えば、体が上手く動かせない事でピタッと止まれないから、わざとではないけれど人にぶつかってしまうとか。時間の経過が分からないから、友だちとの約束が守れずトラブルの原因になってしまうとか。

耳で聞いたことを眼で確認して、動いてみるという事がものすごく苦手であった…というような事がらが、次々に分かってきました。しかも学習的なこと、社会的、生活面、そして運動の力というのは、どれか一つ良いのではなく、バランスを保つ事で一步步前に進んでいく、という事がよく分かりました。

私の中で特に印象的だった事は、日記を書くという授業の時“丁寧に書いてね…丁寧にってわかりますか？”と先生が言った時、“わかりません”という次男の言葉に“うそっ”と思ってしまいました。なぜなら“丁寧”が分からない次男に対して、私は“丁寧にやりなさい”“丁寧にって言ったでしょ”とイヤと言うほど言ってきてしまったからです。

“うーん…〇ちゃんの場合はゆっくり書く、という事かな。それではゆっくり書いてください”。“ハイ”。という次男と先生のやり取りに、次男が何につまづき、そしてどう支援していかなければならないのかを知ることは、とても大切なことだという事が身にしました。 (中略)

以前の次男は、どこかいつも自信がなく、うつむきがちでした。おまけに、諦めもよく、どうしたものかと思っておりましたが、今では、支援籍の授業の中でも生活の中でも自信を持って取り組む姿が見られる様になりました。

挑戦をしてみるという事に対して消極的な次男が、支援籍学習の中では少し難しい事にもチャレンジしてみたいという意欲を出しはじめていますし、学校生活の中でもびっくりするほど意欲的に、また、この部分はお友だちに絶対負けたくないという姿も見られます。大げさに言ってしまうと、*“見違える様”*なのだと思います。

支援籍（特別支援学校）の先生方、また、中学校の担任の先生方とが連携を取り合い、あらゆる角度から支援していただいている事に大変に力強く、心強く感じ、感謝で一杯です。 (中略)

もう少し早くに支援籍があったらなあ…と思わなくはありませんが、こうして支援籍をしていただける体制がある今が、次男にとって支援していただくベストなタイミングだったのだと信じます。

これからも沢山の課題と、そして発見の中で良い事も悪い事も、次男の、また私たちの生きる力となる事が出来ます様、沢山のの方々のお力をお借りしながら、子どもたちと共に歩いて行かれたら…と思っています。今後ともよろしくお願い致します。

特別支援学級支援籍

(小中学校の通常の学級から特別支援学級へ)



埼玉県のマスコット「コバトン」

特別支援学級支援籍 1（他校で支援籍学習をした事例）

【小学校（通常の学級）から特別支援学級へ】

Aさんの自己紹介



- ・ 小学校4年に在籍しています。
- ・ 日常生活では、特別なサポートは必要ありません。
- ・ 自分の気持ちは、言葉で伝えます。
- ・ 大きな集団の中で自分の力を発揮することは、あまり得意ではありません。

【Aさんの支援籍】

<開始年度>；[小学校]平成22年度～（1年目）

<支援籍校>；小学校（自閉症・情緒障害特別支援学級）

<支援籍学習のねらい>

- （1）落ち着いて学習や活動に取り組めるようになること
- （2）国語や算数などの基礎学力の向上を図ること

【Aさんの支援籍学習の計画（主な流れ）】

[実施に向けて]

4月	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 特別支援学級の弾力的運用で実施
9月	特別支援学級支援籍として実施

[実施]

回数；毎週2回（毎週火、木曜日午前）	内容；通常の授業にそのまま入る
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- （送迎）保護者による送迎
- （付添）なし
- （ボランティア）なし
- （その他）在籍校担任が「教育支援プランA・B」を作成



漢字の読みの学習

【Aさんの支援籍学習（平成22年10月21日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
9:30	登校	・保護者と一緒に登校しました。
9:35	2 国語 3 理科	・国語で、漢字や文章の読みに取り組みました。 ・漢字の読みでは、積極的に挙手をして学習に取り組みました。 ・漢字の読みの学習で、クラスの児童がそれぞれ先生役、児童役に役割分担をして学習しました。 ・プリントを使った学習にも意欲的に取り組みました。 ・3時間目は理科の授業に参加しました。
11:30	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・特別支援学級で個に応じた学習を積み重ねたことで、学習内容が分かるようになり、積極的に挙手するなど、学習に対する意欲の向上がみられました。また、自信を持って学習に臨めるようになりました。
- ・支援籍校では、学習環境が小集団になったこともあり、以前よりも落ち着いて生活できるようになりました。
- ・在籍校では、支援籍学習を開始してから、表情が明るくなり、支援籍校から帰ってくるとニコニコと笑顔でいることが多いです。
- ・生活面でも、気持ちの面でも落ち着きが見られ、気が散ることなく、集中して学習に取り組めるようになりました。



国語のプリント学習

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・開始当初、在籍校の校長先生、支援籍校の校長先生、市教委担当者で打合せを行い、共通理解を持ちました。
- ・支援籍の開始に当たっては、在籍校の担任が関係者と協力して、「教育支援プランA・B」を作成し、保護者と共通理解を持って支援籍学習を行いました。「教育支援プランA・B」を作成することは、しっかりした支援籍の計画を立てるために大変重要です。

特別支援学級支援籍 2（他校で支援籍学習をした事例）

【小学校（通常の学級）から特別支援学級へ】

Bさんの自己紹介



- ・ 小学校2年に在籍しています。
- ・ 知的障害特別支援学級で支援籍学習を受けています。
- ・ 日常生活では、特別なサポートは必要ありません。
- ・ 自分の気持ちは、言葉で伝えますが、少し人見知りで、慣れるまで時間がかかります。

【Bさんの支援籍】

<開始年度>；[小学校]平成22年度～（1年目）

<支援籍校>；小学校（知的障害特別支援学級）

<支援籍学習のねらい>

- （1）国語や算数などの基礎学力の向上を図ること
- （2）特別支援学級の雰囲気慣れること

【Bさんの支援籍学習の計画（主な流れ）】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
1月～	実施

[実施]

回数；週1回（2～3時間）

内容；特別支援学級にそのまま入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
----	----------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度についての相談
-----	------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- （送迎）保護者による送迎
- （付添）保護者
- （ボラティア）なし
- （その他）正式に支援籍学習を行う前に、見学や体験を行った



折り紙でウサギを作る

【Bさんの支援籍学習（平成23年1月12日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
9:40	登校	・保護者と一緒に登校しました。
9:45	2 生活 業間休み 3 個別の学習	・生活の授業では、折り紙を使ってウサギを作る学習に取り組みました。折り方が少し複雑でしたが、先生の話をよく聞いて取り組んでいました。 ・業間休みは、校庭で大縄跳びをしました。クラスの友達だけでなく、他のクラスや他の学年の児童も一緒になって遊びました。以前はうまく跳べなかったBさんですが、周りの雰囲気に乗って跳ぶことができ、とても嬉しそうでした。 ・個別の学習では、「冬休みの作文」を書きました。冬休みのことを思い出しながら、絵と作文を書きましたが、丁寧に書けていました。
11:40	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習で、個別の学習する機会を持ったことで、国語や算数の基礎的な学習の積み重ねができて、学力の向上が図られました。そのため、学習に対して意欲的になりました。
- ・支援籍学習の中で宿題も出しましたが、積極的に取り組みました。
- ・支援籍学習を通して、学習面だけでなく、生活面でも、はりが出て、学習の中でやったことなど家でも良く話をするようになりました。また在籍校でも、生き生きとしてきました。
- ・次年度、特別支援学級への教育形態の変更を考えていますが、クラスの雰囲気慣れ、クラスの友達とも仲良くなることができました。



個別の学習（冬休みの作文）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・他校の特別支援学級での支援籍学習のため、Bさんが環境の変化に戸惑わないように、事前に見学や体験を行ってから、支援籍学習を実施しました。
- ・教育支援プランA・Bを支援籍校と在籍校で協力して作成しました。

特別支援学級支援籍 3（他校で支援籍学習をした事例）

【中学校（通常の学級）から特別支援学級へ】

Cさんの自己紹介



- ・中学校1年に在籍しています。
- ・自閉症・情緒障害特別支援学級で支援籍学習を受けています。
- ・日常生活では、特別なサポートは必要ありません。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えますが、うまく伝わらないことがあります。

【Cさんの支援籍】

<開始年度>；[中学校]平成22年度～（1年目）

<支援籍校>；中学校（自閉症・情緒障害特別支援学級）

<支援籍学習のねらい>

- （1）コミュニケーション能力の向上を図ること
- （2）基礎学力の向上を図ること
- （3）特別支援学級の雰囲気慣れること

【Cさんの支援籍学習の計画（主な流れ）】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 中学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
1月～	実施

[実施]

回数；週2回（2～3時間）

内容；特別支援学級にそのまま入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

年度末	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度についての相談
-----	----------------------------------

【支援籍を進めるに当たって】

- （送迎）保護者による送迎
- （付添）必要に応じて保護者の付き添い（ホラソティア）なし
- （その他）正式に支援籍学習を行う前に、見学や面談を行った



調理の準備（テーブルにごぼうを配る）

【Cさんの支援籍学習（平成23年1月19日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
朝	登校	・保護者と一緒に登校しました。
午前	1 体育	・1周約400mの周回コースのランニングをしました。 ・クラスの友達と一緒に6～7周走りました。
	2 生活	・次の日の調理実習で作る豚汁で使う材料などの準備を行いました。 ・初めに絵カードを使って、材料を確認したあと、使用する数を調べました。次にその数に従って、家庭科室のテーブルに材料を配りました。Cさんも一つ一つ丁寧に取り組んでいました。
	3 数学	・量をはかる学習をしました。クラスの他の生徒と一緒にジュースの量のはかり方を学習しました。 ・電卓を使った計算にも取り組みました。
	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習で、個に応じた学習を行うことで、基礎的な学習の積み重ねができて、学力の向上が図られました。その中で、自分の気持ちや考えを伝えることができるようになってきました。
- ・支援籍学習を通して、学習面でも生活面でも意欲的に取り組めるようになり、支援籍校で学習することを楽しみにするようになりました。
- ・支援籍校のクラスに仲良しの友達ができました。
- ・次年度、特別支援学級への教育形態の変更を考えていますが、クラスの雰囲気慣れ、一人で支援籍校に通うための練習も進みました。



電卓を使った計算

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・中学生ということで、事前に支援籍校のクラスの担任とCさんが面談を行い、Cさんの気持ちを確認し、Cさん自身が納得してから支援籍学習を始めました。
- ・作品を作る学習では、完成できるように計画を立てるなどの配慮をしました。

おわりに

本県の進めてきた「支援籍」は、平成16年度の試行期から7年目を迎え、当初の目的であった全市町村での実施がほぼ達成されました。

特別支援学校に在籍している小・中学部の児童生徒が、居住地の小・中学校に籍を置いて学習をする、「通常学級支援籍」は、平成19年度には、58市町（70市町村）、306名でしたが、3年後の平成21年度には、61市町（64市町村）、388名と拡大しました。

また、小・中学校に在籍している障害のある児童生徒が、障害の状態を改善するために、特別支援学校に籍を置いて学習する、「特別支援学校支援籍」は、平成19年度には34名でしたが、平成21年度には、75名となりました。

さらに、小・中学校の通常の学級に在籍している発達障害を含めた障害のある児童生徒が、特別支援学級に籍を置いて学習する、「特別支援学級支援籍」は、平成19年度には、180名でしたが、平成21年度には259名となり、「通常学級支援籍」、「特別支援学校支援籍」、「特別支援学級支援籍」のいずれもが、拡大深化してきていることが数値からも分かります。

今回の「支援籍学習実践事例集」では、前述の3つの支援籍を、障害種別や小・中の学校別に事例として取り上げております。また、先進的な取り組みとして、「通常学級支援籍」で入学式に参加する事例、間接交流を主とした取組の事例も取り上げております。さらに、支援籍学習に関わってきた保護者の方々の言葉も数多く掲載しております。

これからの支援籍学習の更なる進展、推進のために参考としていただけたら幸いです。

今回の事例集の作成に当たりましては、支援籍学習を行った児童生徒、保護者の方々、市町村立小・中学校、市町村教育委員会、県立特別支援学校の関係者の皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

平成23年3月

埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課

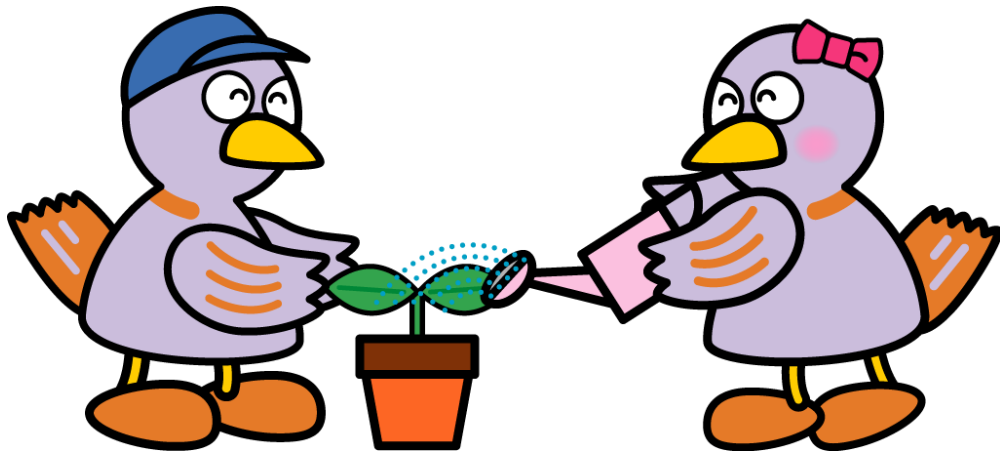


基本理念

きずな

生きる力を育て絆を深める埼玉教育

埼玉県教育振興基本計画を策定しました。



埼玉県のマスコット「コバトン」

支援籍学習実践事例集

平成23年3月

発行者：埼玉県教育委員会

編集：教育局県立学校部特別支援教育課

本書は、当課ホームページよりダウンロードできます。

URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/A20/BN00/hp/temp/temp.html>